

大日本紀元前史

是山喜久編輯

上

東 京 圖 書 館					
三	六	一	五		
冊	号	架	函	属	類

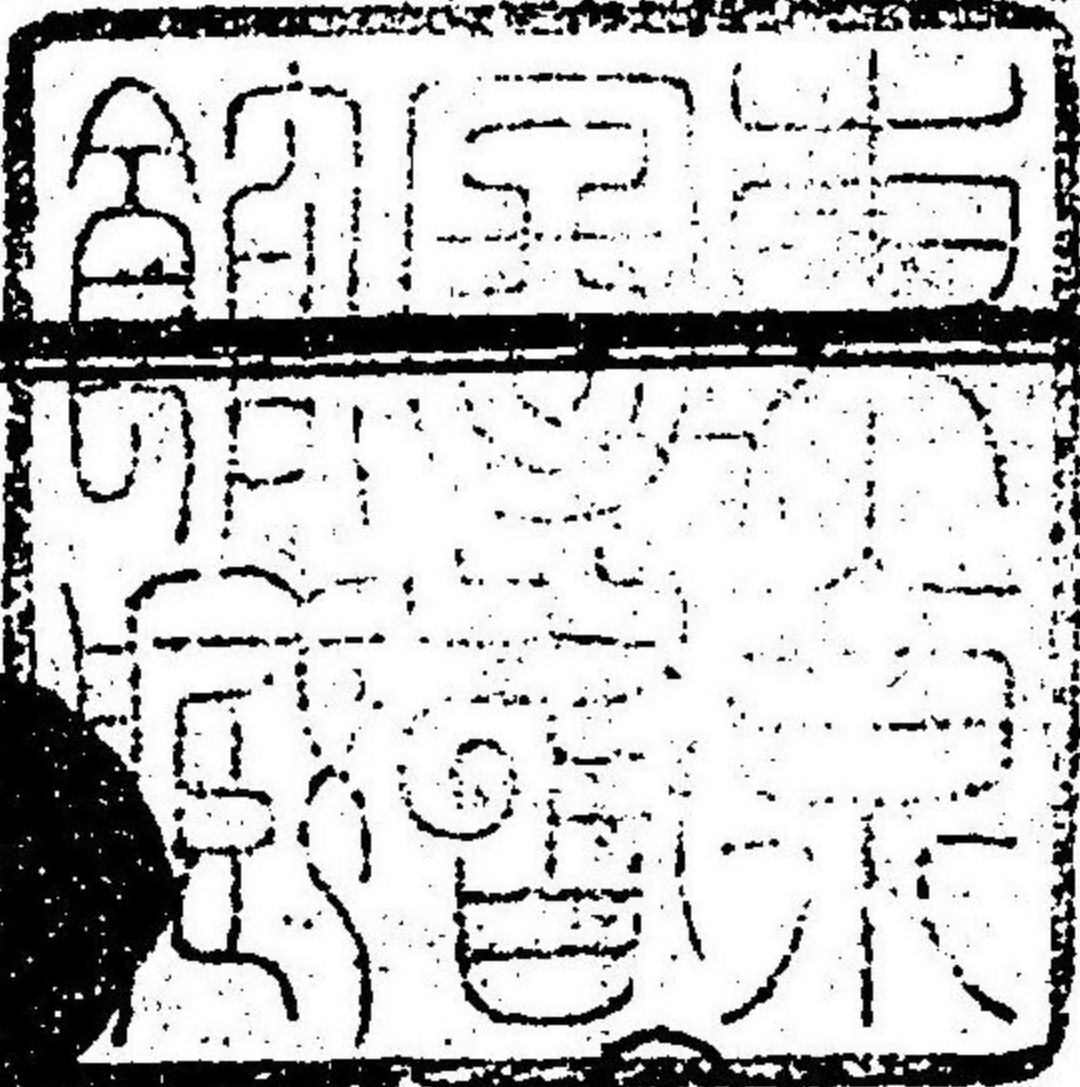
印 書 門

片山喜八編輯

大日本紀元前史

片山書堂藏梓

明治十八年十月十六日內務省



古

同清

乙酉春日

梅重華題



緒言

古典ヲ荒誕無稽ノモノトシテ度外視
スル者ハ未タ其真味ヲ知ラサルヲ以
テナリ沙中金アリ石中玉アリ熟讀
玩味擇ンテ其真ヲ採ル片ハ人情世態
毫モ今日ト異ナル丁アルナシ就中上記
ノ如キハ最モ後世ノ編輯ニ係ルモノ

ト離古

帝陵及ヒ其他ノ確證トスハキモノ少
ナカラズハ少モ疑フハキニ非ラス世人
此書ヲ見テ我カ上世ノ了ヲ了知セヨ

明治十八年

編者誌

凡例

一此書ハ專ラ童蒙婦女子ヲシテ我カ大日本
帝室ノ神祖列聖ノ盛徳鴻業ヲ知ラシメンカ為
メニ編纂シタルモノナレハ事ノ重複ニ係ルモ
ノ煩雜ナルモノ等ハ皆之ヲ省略セリ

一書中

天皇皇后等後世ノ文字ヲ用井タルハ一目了然
タラシメンカ為メナリ

一三種ノ神器ハ

帝室ノ大御寶ニシテ

饒々ニギハヤヒノ尊ヨリ後ハ御即位ノ時必ス授受セサ
セ給フ御事ナレト煩ヲ省クカ為メニ多クハ省
畧セリ

一 本書文艸部俗用字不台拾ナルハ唯童蒙ノ誦讀

ニ便ナラシムカ為ト中ニハ上記ノ仮字遣ヒハ
它書ト異ナル有ルヲ以テナリ

一 上記ハ貞應二年大友左近將監能直ノ古書十五
種ヲ集メテ編輯セラレ神代文字ヲ以テ記ス今

存スル所四十一冊アリ世ニ知ル人少ナキヲ以
テ茲ニ辨シ置クナリ

一 此書ハ專ラ古事記上記ヨリ採譯スト茲ニ亦他
書ヨリスルモノアリ皆其所ニ註譯セリ

一 古事記ノコノタバヨヘル國ヲ造リ堅メナセト
アルノタバヨヘルノ五文字甚タ洪水後ノ景況
ニ似タリ或ハ夫ノ帝堯諾亞時代ノ洪水ト同時
ノ丁ニハアラサルカ特ニ記シテ以テ世人ノ參
考ニ供ス

引用書目

古事記

旧事記

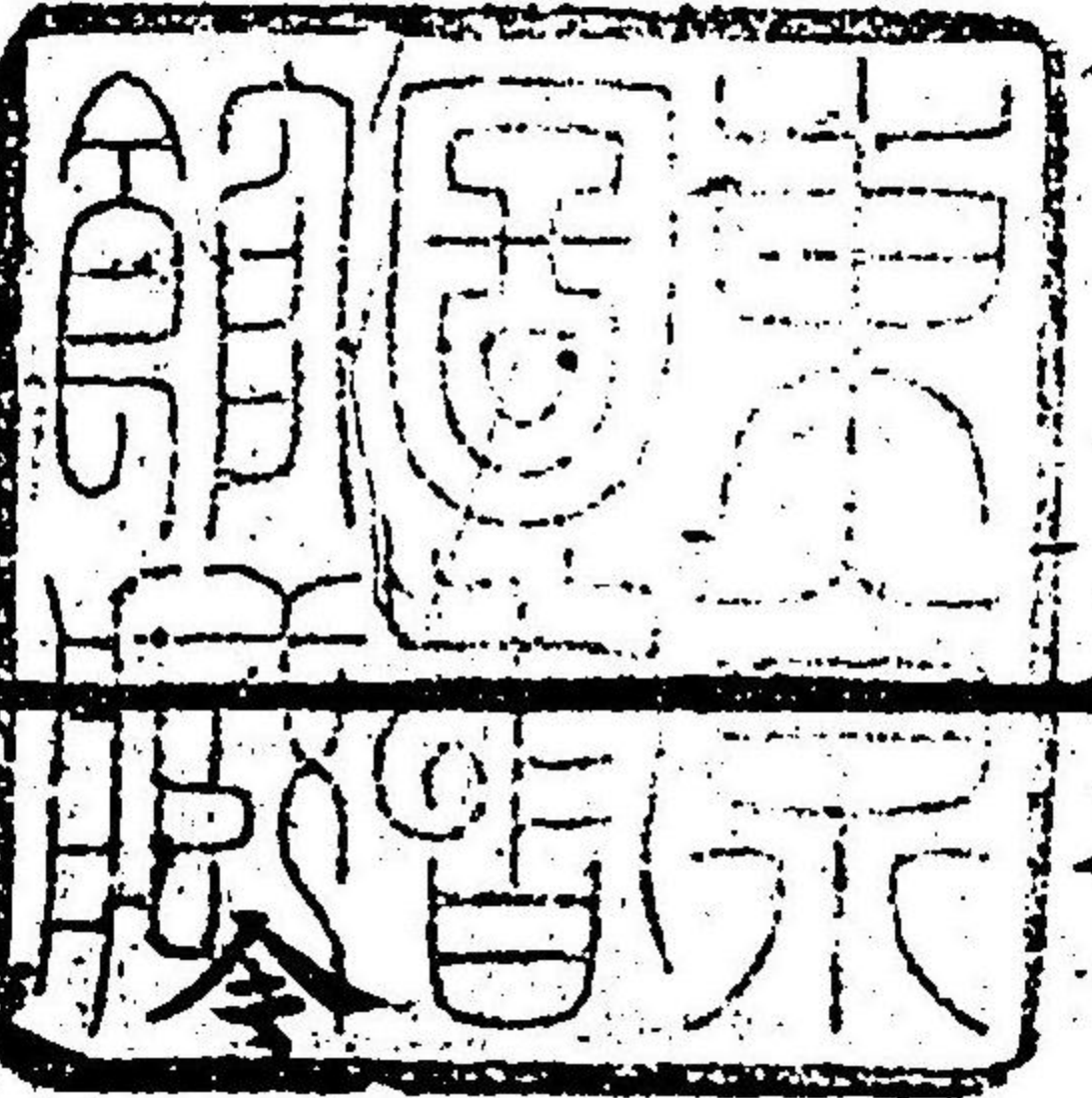
上記

上記抄譯

以上

大日本紀元前史卷一

片山喜八 編輯



今日ハ四海兄弟ノ世ナリ萬國比隣ノ世ナリ信
教自由ノ世ナリ文明ヲ競争スルノ世ナリ人々
宜シク愛スル所ノ邦國ニ來往シ信スル所ノ教
法ニ信從シ智術ヲ研究シテ以テ極度ニ達セシ
メスニハ有ル可ラス者ヨ歐米ノ開化ニ赴クハ
能ク旧陋ヲ去テ新理ヲ研究スルヲ以テナリ要

細亞ノ今日アルハコレニ反スルヲ以テナリ然
リト雖モ其國ニ生レテ其國上古ノコトヲ知ラズ
即チ己カ身ノ出ル所ノコトヲ知ラスハ未タ之ヲ善ク
善ナルモノト謂フヘカラス故ニ已レ自ヲ揣テ
ス古典ニ擬リ我カ大日本

帝室ノ神祖列聖ノ鴻業盛徳ト其元素アルトヲ略
述ス讀者幸ニ熟讀精思シテ其世界無比萬代不
変ナルノ原理アルヲ了知セヨ

蓋シ大虚ハ一ノ大器ナリ故ニ其中ノ物トシテ

事トシテ一モ條理規則ノ存セサルモノアルコ
トナシ日月星辰ノ各自其規道ヲ愆タスシテ正直
運行スルモノハ是レ日月星辰ニ條理規則ノ存
スル有ルヲ以テナリ六十四元素ノ聚散離合萬
物ヲ化生シテ生々盡ルコトナキモノハ是六十四
元素ニ條理規則ノ存スルアルヲ以テナリ而シ
テ其之ヲシテ然ラシムルモノハ靈妙ノ神氣ノ
其中ニ充實シテ之ヲ主宰スル有ルヲ以テナリ
我カ大日本

帝室ノ神祖神智聖德風ク既ニ其然ルヲ明知シ給
ヒテ之ヲ名ケテ

天之御中主神ト稱シ奉リ給フ

古事記ニ曰ク

天地ノ初テ發^{ヒラ}クルノ時高天原ニ成リマセル神
ノ御名ハ

天之御中主神 (註古人天ヲ高天原トイヒ又帝都
ヲ高天原ト云フ)

上記ニ曰ク

天地ノ始ノ時高天原ニナリマセル神ノ御名ハ

天ノ御中主神ト申ス

謹按

天ノ御中主神ト稱シ奉リ給ヘルハ天ノ中央ニマ

シマス神ト云フノ義ナリ

上記

饒々^{ニギハヤヒ}藝ノ尊天皇御記ニ

天之御中主神ハ高天原ノ真中^{マナカ}ニ長座^{ナガイマス}ナス神ナリ

トアリ以テ證トスヘシ

謹按天賦ハ空濶ニシテ中央ト為スヘキ所ナシ
故ニ其中央ト云フモノハ所々皆中央ニシテ所
トシテ在ラサル所ナシト云フノ義ナリ儒ニ天
ト謂ヒ耶蘇ニ天主ト謂ヒ造物主ト謂フモ皆我
ガ

天ノ御中主神ノ御事ニシテ佛ニ阿弥陀ト謂フモ
蓋亦之ニ外ナラサルヘシ又一ニ

天津神ト稱シ奉ル

上記

産葦草菁不合一代彦ノ尊天皇ノ御宇ニ少名アウ
ハリノ命等ノ藥効ヲ試験セントシテ猿ヲ解剖
シタル條ニ人身ハ風火水土ノ四氣ニ成テ其靈
魂ヲ有スルハ

天津神ノ妙用ニ因ルコトヲ發明ストアリ以テ證ト
スヘシ

教法ノ始ハ上記

天照大御神天皇ノ御記ニ

伊邪那岐伊邪那美ノ二尊

神山結ノ命 神山媛ノ命 御魂直日結ノ命 神直日
ノ命 御速秋津結ノ命 速秋津媛ノ命 底津御結ノ
命 底津媛ノ命 讀赤津日結ノ命 赤須媛ノ命 月讀
岩津結ノ命 岩須媛ノ命 山津日結ノ命 山媛ノ命
ニ詔シテ曰ク 汝命等ハ

天皇ト世幸男ノ命 (註世幸男ノ命ハ女帝ノ夫ニ
シテ位女帝ノ下ニアリ世々皇族ヲ以テ之ニ充
ツ古ノ制ナリト) トノ聖旨ヲ奉承シ

天津神ノ神律ヲ宣教シテ皇族以下人民ヲシテ愚

ヲ去リテ善ニ就カシメヨト

謹按

天照大御神天皇ノ御宇ニ在テ

二尊ノ此詔ヲ下シ給ヒタルモノハ

天皇大御年五十二ニシテ始テ万機ヲ自ラセサセ給

フノ古制ナルヲ以テナリ而シテ神律ヲ宣教セ

ヨト詔シ給ヒタル

天ノ御中主神ノ神律即チ正直運行ノ真理ヲ宣テ

以テ人界ノ法則ヲ教誨セサセ給ヒタルモノナ

リ運行人ニ取テ勉勵トナス正直ハ萬善ノ父ナ
リ勉勵、萬行ノ母ナリ即チ人界萬法ノ基本ニ
シテ人事至小ヨリ至大ニ至ル一モ此神律ヲ洩
ル、モノ有丁ナシ我カ大日本

帝室ノ神祖列聖此神律ヲ履行セサセ給ヒ大御自
ラ率先シテ我々ノ祖先ヲ教導統理セサセ給ヒ
因テ以テ世界無比萬世一系ノ

皇基ヲ確立セサセ給ヘリ後世日本魂ト稱スルモ
ノモ日本人ノ多ク正直勉勵ノ心ヲ有シタルヲ

稱シタルニ外ナラス因テ先ツ茲ニ

皇祖列聖ノ大御名ヲ列載シ奉リ次テ七十八聖代
間ノ盛徳鴻業ヲ略記シ奉ル丁左ノ如シ

上記

タカミムスヒノ尊

カムミムスヒノ尊

コムマクラタカキノ尊

カムミタマミラヤノ尊

カニナキノ尊

カムロミノ尊

ウマシアシカヒヒコチノ尊

アメノソコタチノ尊

クニノソコタチノ尊

アメノトコタチノ尊

クニノトコタチノ尊

トヨクニヌノ尊

トヨクニヌシノ尊

トヨカフシヌノ尊

ウキフヌノ尊

ハコクニヌノ尊

ウイチニノ尊 妹スイチニノ尊

ツヌクイノ尊 妹イクグイノ尊

ヲヲトノチノ尊 妹ヲヲトノヘノ尊

オモタルノ尊 妹アヤカシコ子ノ尊

オホトケノ尊 妹ヲホトヘノ尊

ヲヲカシキ子ノ尊

アユカシキ子ノ尊

アマノカカミノ尊

アメノヨロツノ尊

アワナキノ尊 妹アワナミノ尊

謹按以上

廿六尊ハ

帝室ノ神祖ナリ

者ヨ

伊邪那岐尊天皇ノ御宇ニ至テハ既ニ廿四國ノ境
界國名及ヒ諸島ノ名モ定マリ國々ニ守令アリ

属官アリ朝廷ニハ諸職ノ官負アリ金玉諸鑛ヨ
リ宮殿船車及ヒ衣食ノ具モ大ニ具備セリ是レ
前ニ數十世ノ帝王オハシマシテ既ニ教導統理
セサセ給フノ久シキニアラスニハ何ソ此開明
ヲ當時ニ見ルヲ得ヘケンヤ

伊邪那岐尊天皇御即位

皇后伊邪那美尊

古事記ニ曰ク

コノニ

天津神諸ノ命以テ

伊邪那岐尊伊邪那美尊二柱ノ神ニ此タゞヨヘル

國ヲ造リ固メ成セトノリゴチテ天ノ沼ヲ賜

ヒテ言ヨサシタマヒキ

謹按是レ

伊邪那岐尊天皇ノ

阿波那岐尊天皇ノ大統ヲ繼テ天職ヲ承ケサセ給

ヒタルヲ云フモノナリ古人

天ノ御中主神ヲ天津神ト申シ又朝廷ノ官負ヲモ

天津神ト云ヒ地方ノ官負ヲ國津神ト云ヒ又死

人ヲ祭祠スルニ當テ之ヲモ國津神ト云フ是ニ

天津神トアルハ

天之御中主神ノ御事ニシテ而シテ其意タル即チ

朱熹ノ大學ノ序中ニ云ヘルカ如ク一モ聰明叡

智能少其性ヲ盡スモノ其間ニ出ルコト有ルト

キハ天必ス之レニ命シテ以テ億兆ノ君師トナ

シ之ヲシテ治ノテ而シテ之ヲ教ヘテ以テ其性

ニ復ラシムト謂ルカ如キノ意味ニテ

二尊ノ聖徳廣大ナルヲ以テ

天ノ御中主神ハ祐助セサセ給ヒ人民ハ服従シ奉
リ

阿波那岐天皇ノ大統ヲ継テ天職ヲ受ケサセ給ヒ
タルヲ云フモノナリ我カ

天津神ハ彼カ所謂天ニシテ而シテ其

天津神ノ直ニ面命シ給ヒタルカ如クニ書ケルハ
是レ古人ノ文法ナリ

御巡幸ノ下

カレニ柱ノ神天ノ浮橋ニ立タシテ其浴^ノヲ指
シホロシテ畫^カキ給ヘハ塩^ノコヲ口^ノコヲ口^ノニ畫^キ
ナシテ引キ上ケ給フ時ニ其矛ノサキヨリシタ
ベル鹽積リテ島ト成ル是レオノコロ島ナリ其
島ニ天^ア降^{モリ}マシテ天ノ御柱ヲ見立ハ尋殿ヲ見立
給ヒキ

謹按是

二尊ノ天職ヲ享ケテ始メテ天下ヲ巡幸セント欲
シテ先ツオノコロ島ニ渡御セサセ給ヒタルヲ

云フモノナリ天ノ浮橋ハ船ナリ沼矛ハ耜鋤ノ
類水中ノ土沙ヲ搔キ集ムルノ器ナリ此時ノ帝
都ハ紀州熊野ニシテオノコロ島ハ紀淡近海ノ
一島ナリ而シテ此ニ始メテ新一島ヲ作りテ
之ニ渡御シ給ヒタルカ如クニ書キタルハ是レ
古人ノ文法ナリ
御巡幸ノ了前ノツ、キ
是ニ其妹

伊邪那美尊ニ汝身ハ如何ニ成レルト問ヒ給ヘハ

吾身ハ成リ成リテナリ合ハサル處一處アリト
マヲシ給ヒキ

伊邪那岐尊ノリタマヒツラク我カ身ハ成リ成リ
テ成リ餘レル處一處在リカレ此吾身ノ成リ餘
レル處ヲナガミノナリ
■ ■ 合ハサル處ニサシ
フタギテ國生ミナサムト思フハ如何ニトノリ
給ヘハ

伊邪那美尊然カ善ケントマヲシタマヒキ是ニ
伊邪那岐尊然ラハ吾ト汝ト此天之御柱ヲ行廻リ

アヒテミトノマダグハヒセナトノリ給ヒキ
謹按是レ

二尊御授禪ノ後チ相議シテ立后ノ典禮ヲ後チニ
シテ先ツ天下ヲ御巡幸セサセ給ヒタルコト云
フモノナリ而シテ其始メテ男女ノ形骸ノ異ナ
ルヲ知ツテ爾カ宜ヒタルカ如クニ書シタルハ
前ノ

天津神ノ面命シ給ヘルカ如クニ書シタルトオノ
コ口島ヲ作テ之ニ行幸セサセ給ヒタルカ如ク

ニ書キタルト共ニ古人ノ文法ナリ

同前ノ續キ

斯ク云ヒ期^{チキ}リテ乃チ汝ハ右ヨリ廻クリ逢ヘ我
ハ左ヨリ廻リ逢ハムトノリタマヒ^{チキ}約リ竟ヘテ
廻リマス時ニ

伊邪那美命先ツアナニヤシエオトコヲトノリ給
ヒ後ニ

伊邪那岐命アナニヤシエヲトコヲトノリ給ヒキ
各ノリ給ヒ竟ヘテ後ニ其妹ニヲミナヲコトニ

サキタチテフサハズトノリ給ヒキ然レトモク
ミドニオコシテ御子ヒルコヲ生ミ給ヒキ此子
ハアシブネニ入レテ流シ去ラツ

謹按此章ハ人界ノ法則即チ男ハ先女ハ後男ハ
上女ハ下ナルノ法則ナルコトヲ示メシタルモ
ノナリ總シテ此ノ篇ハ皆人界ノ法則ノ起本ヲ
記載セルモノナリ前章ノ第一段ハ

二尊ノ神智聖德アツテ而シテ後ニ天職ヲ享ケサ
セ給ヒタルヲ記シタルモノナリ第二段ハ

二尊ノ立后ノ私典ヲ後チニシテ先ツ人民ノ為メ
ニ天下ヲ巡幸セサセ給ヒタルコトヲ記シ奉リ
タルモノナリ第三段ハ人法ノ一部分男ハ上ニ
シテ女ハ下ナルコトヲ記シタルモノナリ第四
段ハ天職ハ天下ノ重事ニシテ嫡皇子ト虽トモ
其器ニアラサレハ天職ヲ兼クヘカラサルノ法
則ヲ記載シタルモノナリ第五段ハ
二尊ノ正直勉勵未タ多年ナラスシテ二度天下ヲ
巡幸セサセ給ヒテ其天職ヲ盡サセ給ヒタルヲ

ヲ記シタルモノナリ而シテ是レ皆一ニ
天之御中主神ノ神律ニ原本シテ履行セサセ給ヒ
タル御事ナリ今前五段ニ就テ試ニ段別其原理
ヲ詳説スルト左ノ如シ

第一段ノ解

神ハ人ノ上ニ人ヲ造ラス而シテ其人ノ上ニ人ノ
在ルニ至レルモノハ其人ノ智徳ノ拔群ナルヲ
愛敬シテ彼ヨリシテ我ヲ彼カ上ニ居ラシメタ
ルモノナリ之ヲ人界ノ法則上ニ於テ正經ノ優

勝ヲ得タルノ人ト謂フ

第二段ノ解

婚姻ハ人界ノ法則上ニ於テ最モ重要ノトトナ
ス因テ以テ一家ヲ保全スヘク因テ以テ子孫ヲ
繼續スヘシ抑モ人ハ動物中ニ於テ最モ多ク智
徳ヲ備具シテ最上等ニ位スルモノナリ其婚姻
ノ如キハ宜シク法則ヲ履マスンハアルヘカラ
ス然レ氏此時ニ當テヤ天職ヲ重シトシ私事ヲ
輕トス故ニ

二尊立后ノ典禮ヲ後ニシテ左右ニ別レテ先ツ天
下ヲ巡幸セサセ給ヒタルモノナリ

第三段ノ解

天津神ノ人ヲ生スルヤ分ツテ男女トナシ男ハ以
テ身軀強壯志氣浩大ナラシメ女ハ以テ身軀軟
弱志氣詳密ナラシメ二人相合シテ以テ一家ヲ
保續セシム故ニ一家ニ在テハ男ハ外ヲ勤メ女
ハ内ヲ修ムヘシ竝坐スルトキハ男ハ上ニシテ
女ハ下ナルヘシ之ヲ人界男女ノ法則トナス茲

ニ

二尊ノ其言ノ前後ヲ云々シ給ヘルト書シタルハ
是ノ法則ヲ示シタルモノナリ

第四段ノ解

一家ノ事務之ヲ其嫡子ニ傳フルハ是レ人界傳
家ノ法則ナリ然レ氏天職ハ重事ナリ其人ニア
ラスシテ之ヲ傳ルハ之ヲ天職ヲ私スルモノト
云フヘシ是レ

二尊ノ水蛭子命ヲ置テ

天照大御神ニ天職ヲ讓ラセ給ヒタルモノナリ
第五段ノ辭

是レ

二尊ノ正直勉勵加フルニ勇敢活潑寒暑ヲ避ケス
艱難ヲ辞セス大御身ヲ苦勞シテ天職ヲ盡サセ
給ヒタルコトヲ記セルモノナリ

右ノ五段ハ皆萬世人界法則ノ龜鑑ニシテ世界
萬國往ク所トシテ一モ之ヲ洩ル、コト有ルコトナ
シ是レ

二尊ノ聖人中ノ聖人ニシテ萬世無窮ノ

皇基ヲ確立セサセ給ヘル所以ナリ

以下ハ上記ヨリ引証摘譯シテ以テ當時ノ御景
況ヲ畧示ス本文ヲ掲ケサル者ハ煩ヲ省クカ為
ナリ

御巡幸ノ國島

アハチノホノサワケ 今ノ淡路島

エヒメ 今ノ伊豫

イヒヨリヒコ 今ノ讃岐

オホケツヒメ 今ノ阿波
タケヨリワケ 今ノ土佐
シラヒワケ 今ノ筑前筑後
トヨヒワケ 今ノ豊前豊後
ハヤヒワケ 今ノ肥前肥後
クシヒネワケ 今ノ日向大隅
タケヒワケ 今ノ薩摩
アメノヒトツハシラ 今ノ壹岐
アメノサテヨリ 今ノ對馬

アメノオシコロワケ 今ノ隱岐
フタコシマ 今ノ佐渡
アキツネワケ 今ノ大和河内山城
クサキネワケ 今ノ攝津和泉紀伊
アハミネワケ 今ノ近江美濃
イセツヒメ 今ノ伊勢志摩尾張
トホツミワケ 今ノ遠江甲斐三河駿河伊豆
ムサシツミワケ 今ノ武蔵相模安房
ヨチヒコ 今ノ上総下総常陸

サヨリシヌヒコ 今ノ飛彈信濃
 ノチ、ヒコ 今ノ上野下野
 チ、ノクワケ 今ノ磐城岩城陸前陸中陸奥羽
 前羽後
 コシ子ワケ 今ノ越前越中越後加賀能登若狹
 タニハワケ 今ノ丹波丹後但馬
 イツモワケ 今ノ出雲石見因幡伯耆
 アナトネワケ 今ノ長門周防安藝
 キヒツネワケ 今ノ備前備後美作

内外ノ諸官

朝廷ノ官集

大言押置ノ命 大言押臣ノ命 岩辻彦ノ命
 岩辻媛ノ命 大問彦ノ命 大問媛ノ命 天之
 吹男ノ命 天之吹女ノ命 大矢彦ノ命 大矢
 媛ノ命 笠手津別押男ノ命 笠手津別押女ノ
 命 岩津若男ノ命 岩津若女ノ命 天津豊田
 ノ命 天津豊田媛ノ命 大樫彦ノ命 大樫
 ノ命 大樫之男ノ命 大樫之女ノ命

大樫之男ノ命

大樫之女ノ命

河海ノ官員

大海住御親ノ命

大海媛ノ命

早秋津洲彦ノ命

命 早秋津媛ノ命

西國ニ置クノ官員

志那津彦ノ命

志那津媛ノ命

朝廷ニ在ル山野ノ官員

久々之智ノ命

茅野媛ノ命

大山住ノ命

大

山媛ノ命

右各々屬官アリ其職ヲ分任セシム

南國ニ置クノ官員

火之耀彦ノ命

火之耀媛ノ命

中津國ニ置クノ官員

金山彦ノ命

金山媛ノ命

東國ニ置クノ官員

羽仁安彦ノ命

羽仁安媛ノ命

北國ニ置クノ官員

水羽之男ノ命

水羽之女ノ命

耀土ノ命降誕

日向方媛ノ命降誕後ニ

天照大御神天皇ト申奉ル

月讀雄ノ命降誕

速進男ノ命降誕

日向方媛ノ命ニ天職ヲ讓ル

月讀雄ノ命速進男ノ命ヲシテ大政ヲ輔ケシム

天照大御神媛天皇

上皇太后

明魂雄ノ命明魂女ノ命葦居彦ノ命葦居媛ノ命

ニ詔シテ曰ク汝命等ハ醫官(原名人種ノ御命

ヲ護ルカミ)ト為テ人民ヲ保護セヨト

御魂水穗結ノ命燒速女ノ命ニ詔シテ曰ク汝命

等ハ

天皇ト世章男命トヲ輔佐シテ大政ヲ助クヘシト

神山結ノ命神山媛ノ命御魂直日結ノ命神直日

ノ命御速秋津結ノ命速秋津媛ノ命底津御結ノ

命底津媛ノ命讀赤津日結ノ命赤須媛ノ命月讀

岩津結ノ命岩須媛ノ命山津日結ノ命山媛ノ命

ニ詔シテ曰ク汝命等ハ

天皇ト世幸男命トノ聖旨ヲ奉来シ

天津神ノ神律ヲ宣教シ皇族ヨリ人民ニ至ルマテ

悪ヲ去リテ善ニ就カシメヨト

大言押置ノ命ヲホトヲシテ大言押臣ノ命ニ詔シテ曰ク汝命

等ハ語學教師ト為テ諸國ヲ巡回セヨト

香久槌ノ命カグツチ妹火之燒イモホノヤキ早日ノ命ニ詔シテ曰ク汝

命等ハ人民ノ為メニ山野ヲ開拓セヨト

水羽之男ノ命ミツハノヲ妹水羽之女ノ命ニ詔シテ曰ク汝

命等ハ人民ノ為ニ水理ヲ計畫セヨト

大山住ノ命ヲホヤマジ大山媛ノ命ニ詔シテ曰ク汝命等ハ

人民ノ為メニ山野村里河海ニ草木ヲ蕃殖セシ

メヨト

諸命謹テ詔ヲ奉シ各マタ數多ノ屬官ヲ命ス原

書ニハ皆之ヲ生ムト書キタリ

上皇崩ス日ノ若宮ニ葬ル

太后崩ス紀州熊野有馬村ニ葬ル(曰事紀)

天皇詔シテ阿波ノ國令大食媛ノ命ヲホゲツヒメヲ召テ十四歳

ノ栽培法ヲ全國ニ教授セシム

大食媛ノ命屬官ヲ率テ先ツ日向大隅ヨリ始テ

公田私田公畠私畠ヲ定メ村ニ村長ヲ置キ租稅

ヲ定メ十四穀ノ栽培法ヲ人民ニ教授シ終ニ之

ヲ全國ニ及ホス

詔シテ大海住松浦彦ノ命妹大海住神戸媛ノ命

ヲシテ渙獵ノ業ヲ全國ニ開カシム

天之押穗耳ノ命降誕

謹按是ヨリ前世幸男ノマシマシタルモノナリ

史御名ヲ闕ク惜ムヘシ

詔シテ諸國ニ牛馬ノ牧ヲ開カシム

詔シテ酒ヲ造ルヲ全國ニ教ヘシム米ヨリ釀

スヲマサカト云ヒ麥ヨリ釀スヲミサカト云フ

又味噌ヲ釀スヲ教ヘシム

詔シテ養蠶ノ業ヲ全國ニ教ヘシム

詔シテ織機裁縫ノ術ヲ全國ニ教ヘシム

速進男ノ命天資豪邁材武絶倫ナルモ却テ皇命

ヲ遵奉シ給ハス失禮頗ル多シ

天皇憂患相見ルコトヲ欲セス天ノ磐戸ニ籠居シ給
フ人民失望シテ之ヲ太陽ノ没セルニ比スコ、
ニ於テ群臣相會シテ強テ出御ヲ請ヒ速進雄ノ
命ヲ罰シテ之ヲ追放ノ刑ニ處ス命大ニ悔悟ス
天之兒犀根ノ命之ヲ證ス

天皇大ニ悦テ速進男ノ命ニ命スルニ中國ヲ沼メ
テ併セテ草賊ヲ鎮靜センコトヲ以テス是ヨリ速
進男ノ命ヲ國照王ト稱ス

國照王三王子五王女及ヒ諸將ヲ率テ日向ノ霧

島山ニ至リ相議シテ先ツ肥後ノオソノ岳ノ賊

(クムハリ) (ソラハリ) ヲ誅ス

又天之兒屋根ノ命天之太玉ノ命等ヲ遣シテ土

佐ノ賊ヲ平ケシム

國照王進テ穴門ニ至ル國令穴門別ノ命鯨肉ヲ

献ス豊後ニ至リ賊(ヲロツ) ヲ誅シテ(手)

無槌) (足無槌) ノ女稻田媛ヲ娶ル進テ丹波

ノ賊ヲ平ケ又還テ攝津ニ至リ天津彦根ノ命天

之兒屋根ノ命等ヲ遣シテ紀伊ノ賊ヲ討シム又

天之太玉ノ命伊武留外面ノ命等ヲ遣シテ飛騨
信濃ノ賊ヲ討シメ生津彦根ノ命佛主ノ命等ヲ
遣シテ越ノ賊陸羽ノ賊ヲ平ケ諸將ヲ率テ恭朝
シテ諸國平定ノ了ヲ奏聞シ村雲ノ御劔ヲ献ス
賊(ヲロツチ)ヲ誅シテ得ル所ナリ

國照王朝ヲ辞シテ出雲ノスカノ宮ニ遷リ宮殿
ヲ造築シ政事ヲ改良シ農業ヲ獎勵シ大ニ人民
ヲ安撫シ又地之長持ノ命地之長媛ノ命早間田
男ノ命早間田女ノ命出雄之羽張ノ命速玉之男

ノ命等ヲ諸國ニ派遣シテ政事ヲ改良セシム
國照王諸國ヲ巡視シ日向ノ國ニ至ル村老叡ヲ
献ス王大ニ悦ヒテ御歌ヲ作ル

歌

コレノイナホハ トヨヒホニ ハタツイナ
ホハ クシヒホニ クナツチホハ ハヤヒ
ホニ ムホキノマホハ タケヒホニ キビ
ノタリホハ シラビホニ ラ、ミタカラ
トタルトタル カシコ子コ

豐前ニ至ル村主（今ノ戸長）小豆餅ヲ獻ス穴
門ニ至ル國人牛馬ヲ出シテ迎送ス終ニ蝦夷ニ
到リ陸羽ニ到リ歸路土佐ヲ過ル國人酒ヲ獻ス
出雲スカノ宮ニ還リ大ニ天下ノ政事ヲ改良シ
テ國事ヲ王子八島地沼ノ命ニ托シテ薨スクマ
ナスノ岳ニ葬ル
八島地沼ノ命天下ヲ巡視ス陸奥ノ主令等馬百
六十頭牛百六十頭ヲ獻ス即チ諸國ニ分ツテ牛
馬ノ牧ヲ開カシム

八島地沼ノ命諸政ヲ王子天之冬衣ノ命ニ任ス
天之押穗耳天皇天職ヲ受ク

天之冬衣ノ命天下ヲ巡視シテ陸奥ニ到ル國人
茅卷餅チマキモキヲ獻ス越後ノ國ニ到ル國人清酒ヲ獻ス
天之冬衣ノ命諸政ヲ王子大汝ヲホナムチノ命ニ讓ル
大汝ノ命諸國ヲ巡視セントシテ出雲ノイサハ
ノ小濱ニ至テ少名彦名スクナヒコナノ命ニ會シテ共ニ盡力
シテ多クノ田野ヲ開墾ス
又肥後ノ賊（モシルトキモリ）ノ起ルニ會ス

自ラ味鋤高彦根ノ命木之俣彦ノ命等ヲ率テ往
テ之ヲ平シ

大汝ノ命病ム少名彦ノ命大分ノ速見ノ温泉ヲ
汲テ之ニ浴セシメテ病癒ユルコトヲ得タリ

大汝ノ命ノ妣高津媛ノ命病ム同ク温泉ニ浴シ
テ病癒ヘタリ

大汝ノ命少名彦名ノ命是レヨリ大ニ醫術ヲ研
究シテ多少ノ人民ヲ救フ

積羽八重言代主ノ命アキニナヒ(交易)ヲ人
民ニ教エ先ツ攝州浪華ニ家屋ヲ造リ交易ノ始
トナシ布キテ全國ニ及ホス

又網ヲ作テ魚ヲ捕ルコトヲ全國ニ教エシム
國照王奏シテ曰ク此瑞穗ノ國ハ我カ子孫ノ治
ムヘキ國ニ非ラス宜シク

天皇ヲシテ親裁セシメ奉ルヘシト
謹按始メ國照王ノ

天照大御神天皇ノ詔ヲ奉シテ天下ヲ巡廻セサセ
給ヒテヨリ引テ子孫ニ至リ施政ニ途ニ出ル

形ヲナスニ至レリ然レモ是國照王ノ本意ニア
ラス故ニ其薨去既ニ久シキノ後ニ在テ突然其
然ルヲ明記シ而シテ大政ヲ朝廷ニ奉還シタル
モノナリ是レ始メニ

天津神諸ノ命以テ

二尊ニ此ノ漂エル國ヲ造リ堅メ為セト命シ給フ
ト書キタルト同一ノ文法ナリ抑權勢ハ人情ノ
欲スル所ナリ而シテ大汝ノ命此ニ至ツテ脱然
其政權ヲ奉還シテ却テ之ヲ喜フモノ、如キハ

至正至直真ニ神律ニ從事スルノ行為ト云フヘ
キナリ

天皇大政奉還ノ事ヲ群臣ニ議セシメテ勅使ヲ出

雲ニ遣ハシテ之ヲ大汝ノ命ニ傳ヘシム

大汝ノ命即チ詔ヲ奉シテ十王子咄鋤高彦根ノ

命積羽八重言代主ノ命天之木之俣ノ命天津柏

御井ノ命山失露彦ノ命若佛主ノ命八尋彦長依

彦ノ命紺枕白主ノ命天之生魂ノ命天之御井ノ

命ヲ率テ奉朝シテ大政ヲ奉還ス

詔シテ八島地之臣ノ命ヨリ天之冬衣ノ命ニ到
ルマテ五代ヲ皇族ニ列シ十王子ヲ皆大臣ニ列
ス
天皇皇太子穗之饒々藝ノ命ヲシテ往テ萬機ヲ親
裁セシメント欲シ先ツ詔シテ諸臣ニ遷都ノ地
ヲ四方ニ撰ハシム
國ノ玉分ノ命奏シテ曰ク日向ノ高千穂岳ハ四
面圍ムニ連山ヲ以テシ田野開ケテ尤モ帝都ニ
適スヘシト

於此大汝ノ命ヲシテ子弟臣僚ヲ率テ往テ宮殿
ヲ造營セシム是ヨリ大汝ノ命ヲ稱シテ大床主
ノ命ト云フ
手置帆日ノ命ヲシテ土地ノ開拓ヲ司ラシム
彦狹知ノ命ヲシテ造營ノ工ヲ司ラシム
大山住ノ命ノ子弟ヲシテ樹ヲ伐リ茅ヲ刈ラシ
ム
天之目一ノ命ヲシテ鍛工ノ工ヲ司ラシム
金山彦ノ命ヲシテ金銀細工ノ工ヲ司ラシム

天之日就アノノヒトワシ鷲ノ命ウツノミコトラシテ織物ノコヲ司ラシム
奇照玉ノ命クシテルタマラシテ玉工ノコヲ司ラシム
職工千三百五十人ヲ用ヒ十八宮殿倉庫園圃及
ヒ諸臣ノ館舎ヲ造ル
於此

天皇詔シテ皇太子饒々藝ノ命ニ天職ヲ讓ツテ新
都ニ行幸セシム供奉人員左ノ如シ
思兼ノ命フシメカチ 天之兒屋根ノ命アノノコヤヤチ 天之太魂ノ命アノノフトタマ
石凝留ノ命イシコリメ 玉屋ノ命タマヤ 天之押日ノ命アノノヨシヒ 天之

表春ノ命フモハル 天ノ下春ノ命アマノシタハル 生津彦根ノ命シメツノミコト 天
之穗照ノ命ホテル 天之香久山ノ命アノノカグヤマ 咄知増ノ命アヂシリマス
劔彦ノ命ツルギヒコ 青畑早草彦ノ命アラハタササヒコ 國之押分ノ命クニノオシワケ
岩坂彦ノ命イワサカヒコ 月夜琴得ノ命ツキヨコト 矢野若媛ノ命ヤノワカヒメ
天之宇受女ノ命アノノウウヅメ 豊岡媛ノ命トヨオカヒメ 天之村媛ノ命アノノムラヒメ
八束穗足ノ命ヤツカホタル 茅窓ノ命カヤマド 若早常ノ命ワカサナ 久々
綴彦ノ命トシヒコ 久々若室津那根ノ命ククワカヒコ 天之右卷ノ命アノノミヤマキ
命イナヨリヒコ 稻依彦ノ命イナヨリヒコ 稻依媛ノ命イナヨリヒメ 催玉ノ命サイタマ 岩
井主ノ命イヌシ 菴津彦ノ命サツツヒコ 菴津媛ノ命サツツヒメ 世閑主ヨヒキミ

ノ命 天津君神ノ命 八尋横梨依彦ノ命 綾
戸彦ノ命 天之生魂ノ命 天之御降ノ命 天
之分日ノ命 外ニ僚属二百三十人ニ供奉ス
天之押日ノ命 ハ弓隊ヲ率テ前驅ス
天之村雲ノ命 ハ太玉串ヲ持チ
天之押雲根ノ命 ハ天津祝言ニ任ス
天之劔彦ノ命 ハ矛隊ヲ司ル
岩阪彦ノ命 ハ錦旗ヲ掌ル
味鉏高彦根ノ命 積羽ハ重言代主ノ命 ハ沿道ヲ

警蹕ス
猿田彦ノ命 鳳輦ヲ道ニ迎エテ請テ嚮導トナル
天皇 州ノ門ヨリ龍船ニ衆御シテ日向ノ國ニ渡
御シテ高千穂ノ二上ノ岳ノ新宮ニ著御ス
謹按此時ノ御發船ハ紀州ナルヘシ古史地名ヲ
明記セス憾ムヘキノ甚シキナリ

大日本紀元前史

大日本紀元前史卷一畢

大日本紀元前史

虎山喜八編輯

中

東京圖書館

三冊	六号	一架	五函	屬	類
----	----	----	----	---	---

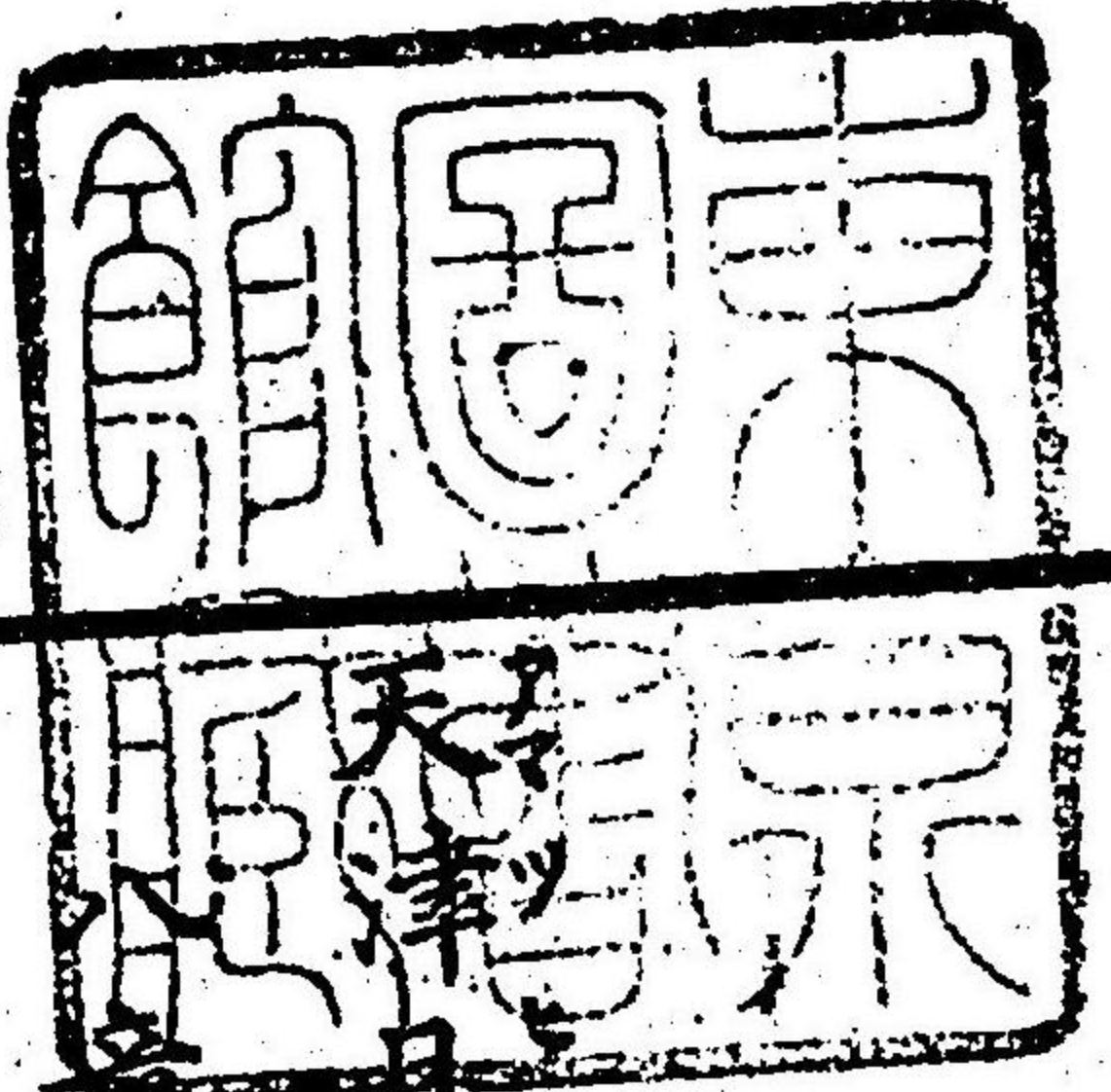
大日本紀元前史

明治十八年十月十六日

大日本紀元前史卷二

片山喜八

編輯



高彦穗之饒々藝ノ尊天皇

意思兼ノ命天之兒屋根ノ命天之太魂ノ命ノ

三大臣及ヒ諸官各正直勉勵其職ヲ奉シテ新宮

ニ侍ス

三大臣相議シテ

天皇新宮ニ着御ノ年ヲ以テ元年トナシ

大日本紀元前史

三十日ヲ一ヶ月ト爲シ
 十二ヶ月ヲ一年ト爲シ三四日ノ餘日ヲ以テ十
 二月ノ末ニ置ク
 一月ヲムツビ月 二月ヲケサリ月 三月
 ヲイマヨ月 四月ヲウベヨ月 五月ヲ
 サナヘ月 六月ヲミナツ月 七月ヲフク
 ミ月 八月ヲハヤレ月 九月ヲナヨ十月
 十月ヲカナメ月 十一月ヲシブル月
 十二月ヲシハツ月ト云フ

一月ヲ三ツニ分チ 始ノ十日ヲ 月終ノ十日
 中ノ十日ヲ 月圓ノ十日 終ノ十日ヲ 月
 籠ノ十日ト云フ
 一年ヲ四ニ分チ 一二三月ヲ コノメハル
 四五月ヲ クニアツ 七八九月ヲ タナツ
 アキ 十十一十二月ヲ コ子ノフエト云フ
 中央ヲ日中 日ノ出ル方ヲ東 日ノ入ル方ヲ
 ヒニリ 南ヲヒナタ 北ヲヒウカト云フ
 天津神ト

天津神ト

國津神トヲ祭り尊称ヲ定ム

天之御中主神ハ高天原ノ真中ニ長座ナス神ナリ

カムミムスビノ尊ヲミムスヒツ、ノ神

ウマシアシカヒヒコチノ尊ヲウマシツ、ノ神

天之底立ノ尊ヲアマツツ、ノ神

國之底立ノ尊ヲクニツツ、ノ神

豊雲根ノ尊ヲトヨクムツ、ノ神

ハコクニスノ尊ヲハコクツ、ノ神ト称ス

大ニ天文学ヲ興ス

三大臣天下ヲ巡視シテ諸政ヲ改良ス

木花咲夜媛ノ命ヲ立テ皇后ト為ス

火須勢理ノ命降誕

火遠理ノ命降誕

詔シテ天之總日ノ命ヲシテ大汝ノ命ノ為ニ出

雲ニ宮ヲ造ラシメ飾ルニ天下ノ珍寶ヲ以テシ

天ノカバスノ命國ノカ、スノ命ヲシテ大汝ノ

命ヲ迎テ之ニ居ラシム之ヲ杵築ノ宮ト云フ

大國白ヌテハ命歴史ヲ作りテ之ヲ献ス

文字ノ丁

コレヨリ先キ八意思兼ノ命ノ人ノフクヲカタト
リテアスラウニカノ五文字ヲ作り五十猛ノ命ノ
物ノ形ヲ採リテ四十五字ヲ作りアカサタナハ
マヤラワノ五十音ト為シ給ヒタルハ左ノ如シ

ア 氷 卅 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ス ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ウ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ニ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

カ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

後ニ

鶴草葺不合ニ代彦天皇ノ御宇ニ至テ言代兄太田
ノ命言代弟太田ノ命ノ簡便ヲ計リテ改メ給ヒ

タルハ左ノ如シ

ア 由 廿 五 一 ム マ 中 ラ ワ
イ キ 片 七 口 止 三 廿 キ 川
ラ 多 久 口 企 フ ム ユ ル 刃
工 四 又 子 上 六 メ セ レ 止

ヲ丑トヘ巳ノ下

濁リ字

チキクケコ サシスメン
ユ业日テト ハヒ一ツヒ

添字

カヤ
クワ

今世用ユル所ハ左ノ如シ

アカサタナハマヤラワ
イキシケニヒミイリ井

ウクスツヌフムユルウ

エケセチチヘノエレエ

オコソトノホモヨロヲ

右ノ外ニ一ヨリ万ニ至ル迄ノ数字十三字ア

其形ハ左ノ如シ

一ニ三王五七正六十

干井並

右一ニ三ハカミトモ讀マシメ干井並ハニコト
トモ讀マシメタリ

官爵ヲ六級ニ定ム

高津大上達 高津上達 明津上達 清津上達

嚴上達 並上達

官名ヲ十七級ニ定ム

大白オホシロ 小白コシロ 大臣オホナミ 小臣コナミ 國司クニシ 内宿ウチノヤ 外宿ソトノヤ

侍御ホトケ 官仕ウラナシ 舍人シモロ 衛士ホセ 老オシ 郡司クニノシ 郷司サトノシ

伍衛イハヒ 使士オホシ 神官カミ 村長ムラナシ

度量衡ヲ改正ス（度量衡ハ後ニ出タス）

天之稻依彦ノ命等三十六命ヲ勅農頭ニ任シ分

テ諸國ヲ巡視シテ農業ヲ獎勵セシム

天皇曰杵大分直入等ノ地ニ耕地ヲ開拓セシメ公

田ヲ親耕シテ人民ノ農事ヲ獎勵ス

皇后皇子大臣及ヒ諸官皆之ニ倣フ

天皇天下ヲ巡幸ス豊頭先立ノ命明神先立ノ命淡

那岐ノ命淡波ノ命連那岐ノ命連波ノ命等ノ諸

官三百五十七名各其職ヲ奉シテ鳳輦ニ供奉ス

又諸學ノ教師ト諸職工ト八百五十六人鳳輦ノ

後ニ從フ

天皇高千穂ノニ上ノ岳ノ大宮ヲ發聲ス

猿田彦ノ命騎馬ニテ郷導ヲナス

豊後大分郡御寶山ノ行宮ニ着御ス人民多ク奉迎ス

宇賀雄ノ命宇賀女ノ命ヲ長官トシテ開墾ヲ勵

マシノ家作ヲ改良シ農業ヲ教諭シ言詞文字ヲ教授シ漁業商法其他百般ノ事ヲ獎勵ス

豊日分天戸長ノ命ヲ御寶山ニ殘シ留テ諸教師職エヲ管理セシム

周防熊毛郡ニ臨御シテ駐輦スルヲ一年

土質ヲ検査セシム

樹木ヲ植エシム

陶器ヲ製ス

玉ヲ製ス

塩ヲ製ス

鑛山ヲ開キテ人民ニ其法ヲ教フ

出雲ニ行幸ス

備中ニ行幸ス

越中ニ行幸ス道ニ於テ天津表春ノ命萬春媛ノ命ノ從者谷ニ陷テ死ス命已レカ衣裳ヲ着セシムテ之ヲ葬ル

陸前ノ刈田郡ノアウ井山ノ行宮ニ臨幸ス

諸所ニ鑛山ヲ開カシム

磐城ノ磐城郡ノ行宮ニ臨幸ス

詔シテ大ニ開墾ノ業ヲ起サシム

大ニ禽獸ヲ狩ラシム

上野ノ戸倉ノ郡ノクラ山ノ行宮ニ臨幸シ駐蹕

スルヲ八年

武房相ニ行幸ス

遠江ニ行幸ス

伊勢ニ行幸ス

近江ニ行幸ス

大和ニ行幸シテ信飛ノマアレ山ヨリ蠶種ヲ採テオタヤノ郡ニニギ蠶高市郡ニアラ蠶ワクベノ郡ニニ兒蠶ヲ養ハシムニギ蠶ハ桑葉ヲ食ヒアラ蠶ハ檉葉ヲ食ヒニ兒蠶ハサクリキヲ食フ

三月十四日吉野山ノ櫻花ヲ遊覽ス櫻花ノ旧名
ヲハバカト云フ此ニ至テ櫻花ト改ム

攝津住吉郡ノ才山ノ行宮ニ臨御ス

アラキドノ小濱阿波門ノ濱ノ近海ニ大魚アツ
テ漢夫ヲ害ス魚捕ノ頭ホスセリノ命言代主ノ
命大魚ヲ捕テ其害ヲ除ク

伊豫ノサハツノ郡サハノ港ニ着御シテイハカ
キ山ノ行宮ニ臨御ス

魚捕ノ頭ホスセリノ命言代主ノ命ヲシテ土佐
ノイサエノ大濱ノ近海ニ鮓ヲ捕テ乾肉トナサ
シムスヘテ

天皇行幸スル所國令郡司郷司村長ヲ定メ旧陋ヲ
除キ新制ヲ興シ人民ヲ愛撫獎勵スルコト至ラサ
ル所ナシ人民悅服シテ萬歳ヲ唱フ

天皇詔シテ曰ク朕ハ是ヨリ還幸シ對馬壹岐ハ皇
太子ヲシニ巡幸セシムヘシト即ケ肥後ヲ歷テ
日向高千穂ニ上ノ大宮ニ還幸ス時當ニ十二月
三十四日ニシテ翌日ハ一月一日ニ當ルヲ以テ

沿道ノ人民每户路ヲ清ノ檜葛等ヲ以テ門代ヲ
造リシリクメ繩ヲ曳キメクラシ祝餅七重飴ル
ニ橙子ト海草トヲ以テスルモノト海魚トヲ具
ヘテ拜迎シテ萬歳ヲ唱フ

天皇大ニ悦ヒ以テ一月一日ノ例式トナサシム
詔シテ皇子火須勢理ノ命火遠理ノ命ノ内ニ天
職ヲ讓ラシトヲ議セシム蓋ニ皇子ノ双生ナル
ヲ以テナリ

火須勢理ノ命辭シテ曰ク吾ハ愚ナリ火遠理ノ
命ニ讓ルヘシト火遠理ノ命曰ク家兄アリ吾何
ンソコレヲ承ケント互ニ相辭シテ天職定ラヌ
火須勢理ノ命己レ帝都ニ在ル時ハ天職ノ終ニ
定マルヘカラサルヲ歎キテ阿波ノ國ニ避ケ隠
ル於此火遠理ノ命ヲ立テ皇太子トナシ天職ヲ
讓ル是ヲ

天津日高彦穗々出見ノ尊天皇ト称ス
火須勢理ノ命ヲ召シテ之ニ天照國照吾子穗々
後持ノ命ト名ヲ賜フ

天津日高彥穗々出見ノ尊天皇

諸官ヲ分任シテ大ニ仁政ヲ行フ

上皇崩ス高千穂ノエノ山ニ葬ル

豊玉媛ノ命ヲ立テ皇后トス

天饒國饒天津日高日子波根建彥尊草葺不合ノ尊

降誕

禍津ヨスセリノ命河内ノ國令宇麻部鶴ノ命ヲ

教シテ乱ヲ為ス速玉五十四彥ノ命速玉櫻彥ノ

命速玉分玉粗ノ命ヲ遣ハシテ討テ之ヲ平ク

サスヲ清御靈ノ命サスヲスカルヲノ命ク、ヤ

タマノ命ク、ミソナヲフリノ命以下二十五命

ニ諸職ヲ分任ス

積羽齋諾ノ命齋冊ノ命積羽天之八水ノ命燒御

親媛ノ命積羽牛猛男ノ命牛猛媛ノ命ヲシテ度

量衡ヲ改正シ諸國ニ市ヲ開テ商法ヲ獎勵セシ

ム

度量衡

度ハ

稻穂壹粒ヲ縦ニ度リ

一粒ヲ一ツ、今ノ一步ニ當ル

十粒ヲ一サソ、今ノ一寸ニ當ル

百粒ヲ一ユキ、今ノ一尺ニ當ル

千粒ヲ一タヨ、今ノ一丈ニ當ル

量ハ

稻穂四百粒ヲ一ツボ、今ノ一タニ當ル

四千粒ヲ一クボ、今ノ一合ニ當ル

四萬粒ヲ一サシ、今ノ一升ニ當ル

四十萬粒ヲ一テ子、今ノ一斗ニ當ル

四百萬粒ヲ一ツカ、今ノ一石ニ當ル

衡ハ

稻穂一粒ヲ一ツマ、今ノ一厘ニ當ル

十粒ヲ一ユト、今ノ一分ニ當ル

百粒ヲ一タナ、今ノ一匁ニ當ル

千粒ヲ一ト子、今ノ十匁ニ當ル

萬粒ヲ一モト、今ノ百日ニ當ル

十萬粒ヲ一カタ、今ノ一貫日ニ當ル

ト定ム

天皇肥後ニ臨幸シテ駐輦スル丁一年

上皇ノ遺詔ヲ奉シ皇后ト共ニ壹岐ニ行幸ス

兎屋表春ノ命オモイカ子カシタテ思兼神建ノ命オモイカ子カシタテ太玉オモイカ子カシタテ奇耳ノ命オモイカ子カシタテ大土オモイカ子カシタテ

道守ノ命等各職ヲ奉シテ之ニ供奉ス

島人瓜ヲ献シマタ奠ヲ献ス

天皇悦ンテ大御歌ヲ作ル

コレノヲ沖海キナニ真ウナツル釣ヲ男ツコサワ多々多

ニツル釣ウナ真サ先キ立タツヤアマ海人サ先キ立タツヤ

シ知ラマクホシ欲キ

島人ニ酒ヲ賜フ

對馬ニ渡御ス

島ノ老人(ハヤマノタロ)クマノヲヨツロ

白酒ヲ献ス

天皇之ヲ賞シテハヤマノタロ(ハヤマサカ)

命(クマノヲヨツロ)シロクマノヲノ命(

ト名ヲ賜フ

島人アカタノ郡深村ノ男(サシヘロト)同村

ノ男（ワシモイミロト）同村ノ女（マロギエ
メ）ヲ戀ヒテ互ニ之ヲ娶シトテ争フ大臣見屋
表春ノ命之ヲ諭シテ日ク九ソ婦ヲ娶ルハ先ツ
媒ニ依リ父母ノ承諾ヲ得テ禮式ヲ行フヘキノ
法則ナリト其争ヲ止メシム
隱岐ニ渡御ス
隱地郡國見岳ノ行宮ニ臨行ス
渙人奥ヲ献ス
佐渡ニ渡御シテ賀茂郡杉山ノ行宮ニ臨幸ス

島人屍拾貝ヲ献ス大臣思兼神建ノ命之ヲ以テ
螺貝ヲ作り以テ供奉ノ官負ヲ指揮スルノ器ト
ナス

天皇杉山ノ瀑布ヲ遊覽ス

佐渡ヨリ豊後ノ黒ノ小濱ニ着御シテ日向ノ高
千穂ノ大宮ニ還幸ス

廿四國ノ境界ヲ確定シ高千穂ニ上ノ大宮ヲ本
トシテ廿四國ノ道法ヲ定ム（里法ハ三ノ卷ニ
出タス）

天之穗丹鶴ノ命ヲシテ全國ヲ巡視セシム
大臣思兼鳴真弓ノ命

天皇皇后並ヒ座シテ新嘗聞食狀ヲ画テ之ヲ献ス
天皇大ニ賞シニ御製ヲ賜フ

御製ノ歌

ア吾カヲ食セルニ新嘗ヒナメハソ其ノエ高ガキニユ
チヨモクチラワニ此コレノニ新ヒケシヲ

天皇東國ニ巡幸ス

大臣思兼鳴真弓ノ命見屋下春ノ命見屋奇玉安

身ノ命以下十名供奉タリ

豊前宇佐ヨリ龍舟ニ御シテ攝津ニ渡御ス

秋津祢ノ令歌山ノ行宮ニ迎テ饗ヲ奉ル

土人多ク参集シテ舞蹈ス中ニ三人ノ老翁アリ

テウタフ年皆百餘歳ナリ

天皇賞シテ何所ノ翁ソト問ヒ給フ答テ曰ク奴ハ

住ノ江ノ翁ナリトコレヨリ此地ヲ名ケテウタ

ト曰フ

信濃ノ駒山ノ行宮ニ臨幸ス皇后後レテ至ル土

人參集シテ萬歳ヲ唱フ

羽後ノオホカチ山ノ行宮ニ臨幸ス土人（カン
ヨツロ）（サワキナナロ）ノ二人田畑ヲ争ヒ
訴フ大臣見屋下春ノ命ヲシテ之ヲ裁判セシム
下野ノオホヤノベノ行宮ニ臨幸ス

陸奥ノ津輕郡ニ巡幸ス

直日種別ノ命ナラヒカス直日ナラヒキ粕玉ノ命ナラヒキ吹終ノ命ナラヒキヲシ
テ金山ノ玉ヲ採ラシム

加賀ノ江沼ノ郡ニ巡幸ス御惱アリ小山ノ温泉

ニ御シテ瘡ユ是レヨリ此湯ヲイユト云フ

丹波ノオノ山ノ行宮ニ臨幸ス時ニ暑氣甚シ息シ
長明ナカアサリサヤカチ先立ノ命シナカ息長シナカ藤戸部ノ命ウキワ團扇ヲ造テ之ヲ
献ス

出雲ニ巡幸ス

詔シテ扇子ヲ造ラシム

石見ノ麻足郡ノサナヘ山ノ行宮ニ臨幸ス
菊地大憲キクチノボ彦ノ命ヒコ燈油ト燈心トヲ發明ス

詔シテ此法ヲ全國ニ傳ヘシム

豊前彦山ヲ歴テ高千穂ノ大宮ニ還幸ス
諸國諸嶋ヨリ貢物ヲ奉ルノ船白井大分ノ西港
ニ輻輳ス

詔シテ納レサラント欲ス貢者帰ル丁ヲ肯セス
詔シテ爾後必ラス納ル、丁勿レト貢者ニ酒肴
ヲ賜フテ之ヲ遣ル

天皇詔シテ皇太子ニ天職ヲ讓ル

皇太子三種ノ神器ヲ奉シテ正殿ニ即位ス

アヲニシテニニシテアツヒツカヒコナギクテウカヤフキヤエス
天饒國饒天津日高日子波限建産葺草葺不命天皇

詔シテ勲位ヲ五級ニ定ム

高津神 タカツカミ 明津神 アカツカミ 清津神 キヨツカミ 嚴神 イツカミ 平神 ヘラカミ

上皇太后共ニ直入宮又御室山ノ宮ニ遊御ス土人
謳歌シテ之ヲ祝ス

上皇崩ス

高千穂ノ高日山ノ西米良ニ葬ル
若玉依媛ノ命ヲ立テ皇后トナス

詔シテ年始ノ祭典ヲ定メシム

一月一日

天津神

皇祖太神

二日

外祖神

三日

庶神

年中宴會日

二月二日 桂柳ノ門代ヲ作り蓬ノ餅ヲ製ス

三月三日 柳櫻ノ門代ニ菴廬子ノ餅

四月四日 瑞葉^{ミツハ}夕花^{ウソハナ}ノ門代ニ櫻葉ノ餅

五月五日 白膠木^{オシロイ}菖蒲^{アヤメ}ノ門代ニ茅ノ尾垂餅

六月六日 終^{ヒラキ}鱗花^{カニ}ノ門代ニ蓮葉ノ餅

七月七日 千^{サカ}榭^キ楓^{カエデ}ノ門代ニ神^ツ葉^ハ葉ノ餅

八月八日 根着萩花草花ノ門代ニ稻餅燒米

九月九日 鶴木菊花ノ門代ニ柿餅

十月十日 綠葉木ノ門代ニ十種ノ新穀ヲ飯ニ炊

夕

十一月十一日 山椿柏ノ門代ニ蕎麥餅

十二月十二日カサミブエサ花ノ門代ニ玉粟餅
児屋表春ノ命思兼神武ノ命等ヲシテ國ニ郡ヲ
置キ郡ニ鄉村ヲ置カシメ國司ヲ年老郡司ヲク
ズ郷司ヲサトシ村司ヲトジ小村司ヲスグリト
称ス

國司ヲ改任ス

日隅ノ國司キチカニ杉村彦ノ命

薩摩ノ國司生玉魂誥ノ命

肥前後ノ國司大土鬼拆ノ命

對馬ノ國司香山國持ノ命

壹岐ノ國司山吹大葛ノ命

筑前後ノ國司岩折立警別ノ命

豊前後ノ國司建豊足日受ノ命

防長藝ノ國司水分豊生彦ノ命

隱岐ノ國司若太刃振ノ命

三備播作ノ國司久々幸弥魂ノ命

雲内伯石ノ國司水本磐鳥ノ命

兩丹但ノ國司タヒサモチ五百村ノ命

伊豫ノ國司岩坂鷲組ノ命

讃岐ノ國司國神作屋彦ノ命

阿波ノ國司及引國神彦ノ命

土佐ノ國司天隅國之玉敷ノ命

紀攝泉ノ國司諾原毛光男ノ命

大河山ノ國司鳴海牛餌ノ命

近美ノ國司サ、ツ玉宿ノ命

伊志尾ノ國司息長袂岡ノ命

飛信ノ國司水方馬採ノ命

遠甲三駿豆ノ國司經津祝玉ノ命

武房相ノ國司大雷荒環覓ノ命

兩野ノ國司江水國形八耳ノ命

三陸磐岩二羽ノ國司金山纏ノ命

三越加能若ノ國司劍荒熊ノ命

兩総常ノ國司御雷飾磨ノ命

佐渡ノ國司明玉雲卷ノ命

舊國司ハ齋ノ正ト称シ其子ハ大宮仕トス

天皇諸臣公田祿田ヲ親耕シ上下富裕人民太平

ヲ歌フ

國政改正ノ旨ヲ

天津神ト

國津神ニ告ク

冠服ノ製ヲ定ム

高千穂ノ大野原ニ

天津神ト

國津神トヲ親祭ス

筑後ノ生葉郡ノ村司ノ子(ホタリヨツロ)

ホタリムエロ(ノ)ニ人始テ漆塗ヲ發明シテ供
御ノ御膳ヲ製シテ之ヲ獻ス

天皇賞シテウルハシノ命ト云フ名ヲ賜フ

磐城河内郡ノ民(アタエマロ) (ユカノヤヨ

ロ) (マキカワフタロ) (ナハナギ) (ユリ

テ) (サトシツロ) (カワナミタロ) (ノ) 七人

相議シテ大船ヲ造リ

天皇ノ臨幸ヲ願フ國司金山纏カヌヤマトヒノ命其船ニ乘テ豊

後ノ瓜生ウラフノ門トニ着シ豊前豊後ノ國司豊足トヨクルヒ日受ヒウケ

ノ命ニ議テ之ヲ高千穂ノ大宮ニ奏ス

天皇其請ヲ允シテ東國巡幸ノ詔ヲ發シ皇后ト同

車シテニ上ノ大宮ヲ發ス

思兼フモヒカネ深宮フカミヤ彦ノ命ミコ兒屋根コヤネ御先持ミサキモチノ命ミコ太玉フタタマ鶴ツル北手キタテ

ノ命以下之ニ供奉ス

車駕大分ノ宮ニ至ル隣國ノ民來集シテ物ヲ獻

シ萬歲ヲ唱フ

豊後ノ民(カチカラヤツロ)シノノミスノ

ヲ(コマキトカマロ)ノ三人蠟燭ヲ製スル

トヲ發明シテ之ヲ獻ス

龍舟東ニ向フ長門ノ人ハ豊前中津ノ沖ニ船ヲ

並ヘテ之ヲ迎ヘ伊豫ノ人ハキ、夕ノ濱ヨリ灘

ノ中ニ迎テ共ニ臨幸ヲ請テ相争フ大臣タミカラウ民柄上

猛タタノ命ミコ鉾種ホコタネ仲猛ナカタタノ命等之ヲ制シテ先ツ長門ノ

濱ニ臨幸シ次ニ伊豫ノ濱ニ臨幸セントス時ニ

物ヲ獻スル者所々ニ輻輳ス詔シテ皆之ヲ却ク

伊勢ノ濱ニ臨御シ遠江ノ沖ヲ歷テ武藏ノ門ニ

泊シ終ニ磐城ノ石川ノ大宮ニ着輦ス土人參集

シテ樂ヲ奏シ渙船ヲ出シテ海魚ヲ獵シ以テ遊
覽ニ供ス駐輦スル丁一年

津輕ノ人又臨幸ヲ請フ因テ臨御ス土人角カ戲ビ
ヲ為テ遊覽ニ供ス

越中ノニヒカヘノ行宮ニ臨幸ス

二丹但ニ臨幸スルニ人民皆富饒ナリ

天皇大ニ悦ヒ御製ヲ作ル

出雲ノ杵築宮ニ臨幸シ穴門ヲ歷テ豊後ノ瓜生
港ニ着御シ終ニ高千穂ノ大宮ニ還幸ス

諸官ト相議レテ

天津神ト

國津神ト又

諸臣ノ神ヲ祭ル

天皇日向ノ高千穂ノ二上ノ大宮ニ崩ステナノア

ヒラノ山ニ葬ル陵中劍墨槍扇ヲ納ム

日高彥波根建產葺草葺不合ニ代日子天皇

橋立媛ハシタテノヒメノ命ヲ立テ皇后トナス

詔シテ言代兄太田ノ命言代弟太田ノ命ヲシテ

歴史ヲ書改メシム

天皇御惱多シ依テ天職ヲ皇弟ニ譲ル

日高彦波根建産尊草薺背不合三代彦天皇

玉嚙ノ命降誕

上皇ノ御惱久シク瘡エス醫官高雄頭弥魂率ノ命

等良藥ヲ上ル二年ニシテ瘡ユ

上皇大野ヶ原ノ仙洞ノ宮ニ在テ大ニ医術ヲ興起

シテ少名大久米ノ命少名阿宇世菽ノ命大物主

耳猛ノ命大國世開ノ命神鋤岩村ノ命山城千々

子カノ命高尾上山玉幸ノ命山城萱種ノ命等ヲ

シテ大ニ藥草藥木ヲ採集シテ之ヲ經驗セシム

医官少名アウハリノ命少名大原ノ命大物主耳

猛ノ命大國世開ノ命神鋤岩村ノ命山城耳子カ

ノ命山城萱種ノ命等猿ヲ養テ藥功ヲ試験シ又

之ヲ解剖シテ十二ノ腸分ヲナシ依テ男女ノ骨

格臟腑ノ位置ヲ論シ四脉ノ在所ヲ研究シ内外

ノ病症ヲ察シ病根ヲ探究スルノ術ヲ發明シ且

人身ハ風氣火氣水氣土氣ノ四氣ニ成テ其靈魂

ヲ有スルハ

天津神ノ妙用ナルヲ發明ス
上皇

天皇ニ是ヨリ前ニ經驗スル所ノ医術薬法ヲ全國
ニ教諭センヲ詔ス

天皇大ニ悦ビ八名ノ医官ヲ分テ諸國ヲ巡廻セシ
ム

上皇讓位ノ後宇佐川ノ川上ノ新宮ニ入御シテ或
ハ老幼男女ヲ召テ酒菓ヲ賜テ歌舞ヲ為サシメ

或ハ壯者ヲ召テ米揚角カノ戲ヲ為サシム米揚
ハ米ヲ苞ニシテ壺斗ヨリ五斗ニ至ル勝者ニハ
弓矢ヲ賜フ角カハ渙者ト樵者トヲ東トナシ農
夫ヲ西トナス勝チ方ハ手ヲ揚テ鼓太鼓ヲ打チ
負ケ方ハ手ヲ下テ鐘ヲ打ツ勝者ニハ亦弓矢ヲ
賜フ

上皇親シク卑人ノ言ヲ聞テ其衛生法ヲ知ラス躰
弱ク壽命ノ長カラサルヲ悲ミ
天皇ニ計テ食物ノ分量法ヲ全國ニ諭達セシム

一人一日ノ食物

ワラハマ七歳テ 米壹合

ウナ井八歳ヨリ 貳合

イカシリ十歳ヨリ 三合

ハヤリ三十歳ヨリ 四合

マスラ五十歳ヨリ 五合

スケ五十七歳ヨリ 四合

マスシ七十歳ヨリ 三合

チ又九十歳ヨリ 三合

マキ又百五十歳ヨリ 二合

サキヲ百五十歳以上 隨意

上皇

天皇天下ヲ巡幸ス大臣須勢理幸魂スセリ別ノ命サキ太玉トタマ雲クモ

方ノ命カタ少名八髪スナナヤカミノ命等十二人之ニ供奉ス

豊後ノ速吸門ヨリ龍舟ヲ癸シテ横津ノ生玉門

ニ着御ス相議シテコレヨリ別レテ

上皇ハ西國ニ巡幸シ

天皇ハ東國ニ巡幸ス

天皇西巡常ノシ井夕ノ郡ニ臨幸ス

ナクキノ村ノ民（トリノヲロ）子孫皆長命ナ
リ

トリノヲロ 百五十七歳

妻ロルハメ 百三十歳

孫タロマロ 百歳

妻マロメ 九十九歳

彦マロミツロ 八十三歳

妻ツロメ 七十四歳

コヒカメコ 五十五歳

妻マツヲトメ 五十歳

孫ミツロ 三十二歳

妻ハナタ 二十七歳

孫ミヤノキ 九歳

天皇之ヲ祝シテ物ヲ賜フ

上皇ハ西丹但ニ巡幸ス

人民山腹ニ宛居スル者多シ

上皇大ニ驚愕シテ紀泉接ヨリ柚木挽大ニ其他諸

職工都合八百人ヲ君ヲ人民ノ為ニ家屋六千七百三十二戸ヲ作ラシメテ之ニ移ラシメ白粥ヲ煮テ之ヲ祝ス人民大ニ悦ビテ萬歳ヲ唱フ
三備播作ヨリ伊豫ニ渡御シ四國ヲ巡幸シ轉シテ雲石因伯ヲ巡幸シ長防藝ヲ歷テ豊後ノ大宮ニ還幸ス
是ヨリ前

天皇ハ既ニ東國ヨリ還幸ス

九州ノ諸國ヨリ奏請シテ曰ク曩ニ医術藥法ノ

教授ヲ受テ人民多ク幸福ヲ得タリ然ルニ往々牛馬ノ疾病アリ願クハ其治療法ヲ教授セラレ
ンコトヲト

詔シテ見屋^{コヤヤハタ}八幡ノ命等十六名ヲシテ其法ヲ定メシメ楮^{カチスギタマ}瀨立岩ノ命等七名ヲ遣ハシテ牧ノ司トシテ牛馬ノ健全ヲ計ラシム

詔シテ官人ヲ諸國ニ遣ハシテ民間ノ事情ヲ觀察セシムルニ無病長命ノモノ大ニ増加シ農事高法益々開ケテ人民大平ヲ樂ムト奏ス

天皇天職ヲ皇太子ニ譲リ直入ノ宮ヲ以テ仙洞ト
ナス

皇太子玉噉ノ命即位ス

日高彥波根建産葺草葺不合四代彥天皇

上皇高千穗ノイサノナキリノ宮ニ崩スナキリノ

ソノカシ山ノ巔ニ葬ル

五十鈴媛ノ命ヲ立テ皇后トナス

天地明成赤珠彦ノ命降誕

天皇詔シテ表春嘉島手ノ命見屋根八日田ノ命等

ニ計テ表春中臣御親ノ命太玉忌部御親ノ命ハ

意齋部ノ命ヲ執政大臣ト為ス

表春中臣ノ命太玉忌部ノ命ハ意齋部ノ命下春

若臣ノ命太玉柏部ノ命ハ意八百富ノ命等ヲ今

テ三大臣ノ助トナス

息長道守男ノ命沖坂苗奴波彦ノ命等ヲ文官ト

ナス

日別瀬之上ノ命宇之上足塩ノ命等ヲ武官ニ任

シ交々諸國ヲ巡視シテ武事ヲ司ラシム

事勝木採男ノ命 粕屋作間ノ命等ヲシテ諸工業ノ長ニ任シ交々諸國ヲ巡廻シテ諸職ヲ獎勵セシム

羽仁安御明彦ノ命 御明濱知ノ命等ヲシテ勸業ノ事ヲ司ラシメテ交々諸國ヲ巡視シテ農業ヲ獎勵セシム

諸臣ノ祿田ヲ定メ又公田ヲ定メ天皇諸臣各自耕シテ貧民ヲ救恤ス

詔シテ人民ノ戸内ニ一ノ高所ヲ設ケテ

天津神ト

國津神ト各自ノ祖先トヲ祭ラシム

衆庶ノ家屋建築ノ制度ヲ定ム

内侍所ヲ造營シテ

天津神ト

國津神トヲ祭典ス

表春中臣ノ命 太玉忌部ノ命 思兼宿祢ノ命 八坂曲玉ヲ以テ貨幣トナシ度量衡ノ用法ヲ廣メ商業工業ヲシテ益繁昌ナラシメント乞フ

詔シテ諸國ニ市街ヲ設ケ數學測量法ヲ教授セ
シム

天皇不豫皇太子天地明成赤珠彥ノ命ニ天職ヲ讓
ル

日高彥波限建產葺草葺不合五代彥天皇

上皇崩ス伊作ノ御宝山ニ葬ル

皇后

石鉾齒並執楯ノ命降誕

思兼宿祢ノ命表春中臣ノ命太玉忌部ノ命ヲ太

政大臣ニ任ス以下舊ニ依ル

此間上紀欠本

六代天皇崩ス大令ノ御宝山ニ葬ル

上皇ノ百五十日祭ニ

天皇皇后

上皇近從ノ臣及人民御陵前ニ參集シテ朝夕ノ供

御ヲ奉リ日中ニハ旗ヲ建テ夜ハ火ヲ燎キ舞樂

ヲ為シテ之ヲ祭リ奉ル

皇太女櫛豐媛ノ命ニ天職ヲ讓ル

大日本紀元前史卷二畢

大日本紀元前史卷二畢

大日本紀元前史

片山喜八編輯

下

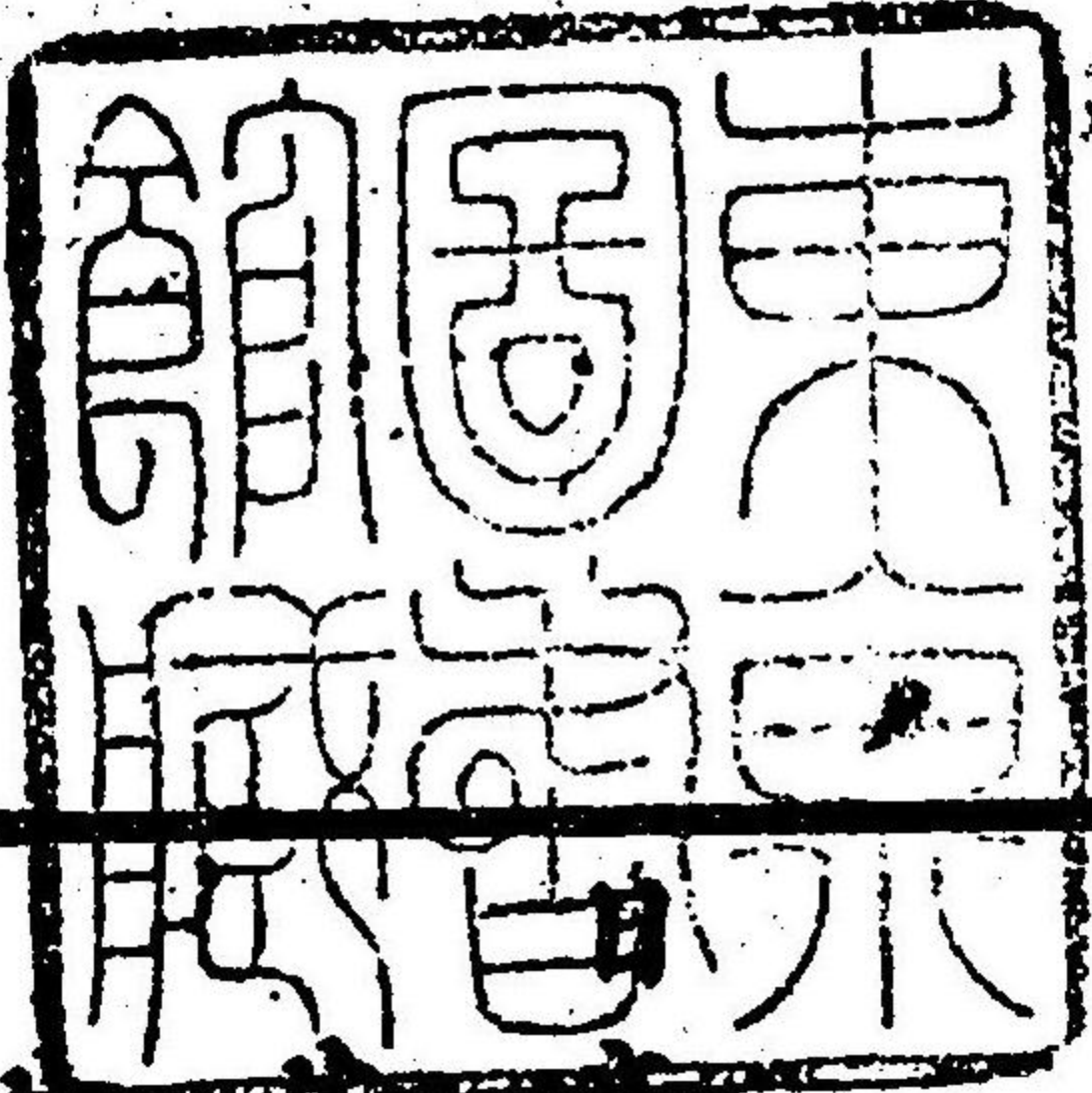
東京圖書館					
三	六	一	五		
冊	号	架	函	屬	類

圖書目

大日本紀元前史卷三

明治十八年十月十六日内務省贈付

片山喜八 編輯



高彦波限建產葺草葺骨不合七代媛天皇

先是天之孫開乎幾明彦ノ命ヲ立テ世幸男トス

先是光徹笑勢媛ノ命降誕之ヲ皇太子トス

五大臣ノ夫人ヲ其夫ノ位ニ准シテ

媛天皇ニ奉仕セシム

勸農頭御年才又子ノ命日就鳥ナル彦ノ命丹後ノ

夕カヌカノ郡ニ大ニ新田新畠ヲ開墾ス
天皇崩スカタヒラホ野ニ葬ル

皇太子光徹笑勢媛ノ命天職ヲ受ク

日高彦波限建産葺草背不合八代媛天皇

國照建魂彦ノ命ヲ立テ世幸男トス

天皇崩ス相良ト日向トノ境ニ葬ル

六代天皇ノ皇女千種媛ノ命天職ヲ継ク

日高彦波限建産葺草背不合九代媛天皇

天皇老年ナルヲ以テ詔シテ世幸男ヲ立テス

天皇崩ス直入ノ阿屋毛山ニ葬ル

千足媛ノ命天職ヲ継ク

日高彦波限建産葺草背不合十代媛天皇

國明鴨澤之雄ノ命ヲ立テ世幸男トス

禍斬劍彦ノ命降誕立テ皇太子トス

天皇皇太子ニ天職ヲ讓リクハラノ太田宮ヲ仙洞

トス

日高彦波限建産葺草背不合十一代彦天皇

玉足穎撰媛ノ命ヲ立テ皇后トナス

弥廣殿作ノ命降誕立テ皇太子トス

内外諸官ヲ改撰シ公田ヲ親耕ス諸民業ヲ樂ム
天皇皇太子ニ天職ヲ讓リ桑野ノ豊ノ中山ニ新宮
ヲ建テ仙洞トナス

日高彦波限建産葺草葺骨不合十二代彦天皇

玉照若媛ノ命ヲ立テ皇后トス

豊明國押ノ命降誕立テ皇太子トス

上皇崩ス御寶山ノ上ニ葬ル

詔シテ人民ヲ繁殖セシムルノ法ヲ改正ス

大臣ヲシテ交々諸國ヲ巡視セシム

詔シテ医術ヲ励マシム

天皇不豫皇太子ヲ召テ曰ク朕ハ明日

高天原ノ

天津神ニ復命スヘシ汝明日ヨリ天職ヲ継ガセト

翌日崩ス阿蘇郡ノ衣織ノ富山ニ葬ル

皇太子豊明國押彦ノ命天職ヲ受ク

日高彦波限建産葺草葺骨不合十三代彦天皇

豊狭媛ノ命ヲ立テ皇后トス

火之進奇猿媛ノ命降誕

○此間上記欠本

皇太女火之進奇猿媛ノ命天職ヲ受ク

日高彥波限建產葺草葺骨不合十四代媛天皇

明立天之榮鉾ノ命ヲ立テ世幸男トス

曰杵彥ノ命降誕立テ皇太子トス

天皇聖美高ク天職ヲ皇太子ニ讓リテ大分ノ御室

山ノ宮ヲ仙洞トス

日高彥波限建產葺草葺骨不合十五代彥天皇

小色幸玉撰媛ノ命ヲ立テ皇后トス

產門真幸ノ命降誕立テ皇太子トス

天皇天下ヲ巡幸シテ對馬ニ渡御ス

國司對馬彥ノ命對馬媛ノ命渙獵ヲナシテ天覽

ニ供ス

天皇大ニ樂テ御製ヲ作ル

天皇皇太子ニ天職ヲ讓リ伊豫ノ隈山ノ新宮ヲ仙

洞トス

日高彥波限建產葺草葺骨不合十六代彥天皇

玉櫻媛ノ命ヲ立テ皇后トス

上皇崩ス隈山ニ葬ル

表照明媛ノ命降誕立テ皇太子トス

天皇聖笑高ク皇太子ニ天職ヲ譲リ大分ノ御室山ノ宮ヲ仙洞トス

○此間上記欠本

日高彦波限建産尊草薺骨不合十七代媛天皇

人民ヲ繁殖スルノ法ヲ改正シテ大ニ之ヲ奨励ス

天皇天津馬鞍之男ノ命ノ家ニ親臨ス命男女八子アリ命奏シテ曰ク臣八子アリ然ルニ皆躰弱ク能ク病ム臣之ヲ憂フト

天皇詔シテ曰ク朕ハ常ニ公田ヲ親耕シテ御年六十ナルモ尚ホ大ニ健康ナリ汝ノ男子ハ常ニ武術ヲ學テ月ノ始ニ三里宛ノ運動ヲ為サシメヨ女子ハ綿取養蠶機織ヲ為シテ月ノ始ニ二里ノ運動ヲナサシメヨ自ラ身体健康ニナリテ無病ナルヘシト

田畝道路ノ法ヲ定ム

田畑畝法

一フミ 縦六尺横六尺

但一尺ハ稻穂百粒ヲ縦ニ為シタルモノ

一ウエ 一フミ十ヲ合シタルモノ

一ツカ 一ウエ十ヲ合シタルモノ

一ツル 一ツカ十ヲ合シタルモノ

一ヒラ 一ツル十ヲ合シタルモノ

道路里法

一フミ 六尺

一マタ 六丈

一マナ 六十丈

一ムレ 六百丈

一サト 六千丈

天皇崩ス星御岳ニ葬ル

皇妹依網里媛ノ命天職ヲ継ク

日高彦波限建産葺草葺不合十八代媛天皇

天津多知ノ命ヲ立テ世幸男トス

天皇崩ス大分ノ御宝山ニ葬ル

皇弟少名形男スナナカタヲノ命天職ヲ継ク

日高彦波限建産葺草薺不合十九代彦天皇

大名形尾媛オホナカタノヒメノ命ヲ立テ皇后トス

天皇皇后諸國ヲ巡幸シ長門伊豫安藝ノ諸島ヲ開

ク

秋津根カトクリノ民(サムレノウムユロ)妻

(ウムユロメ) (キムユロ) 妻(キムユロメ)

(蠶糸ヲ以テ草花ウケ織ノ絹ヲ献ス)

天皇大ニ之ヲ賞シテ此二人ニ

ホメ タウムユロ

ホメ タキムユロ

ト名ヲ賜フ

天皇皇太子ニ天職ヲ傳テ直入宮ヲ仙洞トス

日高彦波限建産葺草薺不合二十代彦天皇

秋媛アキヒメノ命ヲ立テ皇后トス

天饒明立アマニシヨリタテノ命降誕立テ皇太子トス

天皇皇子十五命皇女十四命アリ

天皇諸皇子ト其妹ト諸皇女トヲ集メテ酒饌ヲ賜

ヒ御盃ヲ賜フテ各其業ノ目途ヲ問ヒ給フ

皇子若熊ノ命 妹熊媛ノ命

皇子不知火彦ノ命 妹不知火媛ノ命

皇子白種環ノ命 妹環媛ノ命

ハ醫師ト為テ人民ヲ助ケント歎ス

皇子頭木彦ノ命 妹頭木媛ノ命

皇子湯岳男ノ命 妹湯岳媛ノ命

皇子鳥越彦ノ命 妹鳥越媛ノ命

皇子谷垣根ノ命 妹長依媛ノ命

皇子耳路遠ノ命 妹耳路媛ノ命

皇子伊之木ノ命 妹伊之井媛ノ命

ハ教師ト為テ人民ヲ救ント歎ス

皇子早長田彦ノ命 妹早長田媛ノ命

皇子佐々木彦ノ命 妹佐々木媛ノ命

皇子蟹熊ノ命 妹蟹熊媛ノ命

皇子扇ノ命 妹扇媛ノ命

皇子尾木ノ命 妹尾木媛ノ命

ハ海軍ヲ司テ國ヲ護ラント欲ス

皇女 蘆媛ノ命 垣媛ノ命 玉媛ノ命 藁媛

ノ命 鳥根媛ノ命 加賀原媛ノ命 夕消媛ノ

命 伊勢媛ノ命 太由多媛ノ命 十河媛ノ命

湯鳥媛ノ命 敷依媛ノ命 霜依媛ノ命 白

依媛ノ命

ハ人民ヲ繁殖スルノ業ニ從事セシメテ欲ス

天皇大ニ悦テ各其請ニ從ハシム

天皇天職ヲ皇太子天饒明立ノ命ニ讓ル

日高彦波限建產葺草葺不合二十一代彦天皇

時依媛ノ命ヲ立テ皇后トス

天押開神魂彦ノ命降誕立テ皇太子トス

天皇天職ヲ皇太子天押開神魂彦ノ命ニ讓ル

日高彦波限建產葺草葺不合二十二代彦天皇

皇應

天饒國饒彦月羽ノ命降誕立テ皇太子トス

皇太子天饒國饒彦月羽ノ命ニ天職ヲ讓ル

日高彦波限建產葺草葺不合二十三代彦天皇

皇后

皇太子天饒國饒黑濱彦ノ命ニ天職ヲ讓ル

日高彦波限建產葺草葺不合二十四代彦天皇

玉敷媛ノ命ヲ立テ皇后トス

富秋足中置ノ命降誕立テ皇太子トス

皇太子富秋足中置ノ命ニ天職ヲ讓ル

日高彦波限建產葺草葺不合二十五代彦天皇

棚織媛ノ命ヲ立テ皇后トス

種^{タチ}浙^{カシ}彦ノ命降誕立テ皇太子トス

皇太子種^{タチ}浙^{カシ}彦ノ命ニ天職ヲ讓ル

日高彦波限建產葺草葺不合二十六代彦天皇

皇子建立玉ノ命ヲ立テ皇太子トス

皇太子ニ天職ヲ讓ル

日高彦波限建產葺草葺不合二十七代彦天皇

百合花^{ユリ}建媛ノ命ヲ立テ皇后トス

天之海童^{アメノイクリ}嚙樂之雄ノ命降誕立テ皇太子トス

皇太子ニ天職ヲ讓ル

日高彦波限建產葺草葺不合二十八代彦天皇

中津媛ノ命ヲ立テ皇后トス

神豐實媛ノ命降誕立テ皇太子トス

皇太子ニ天職ヲ讓ル

日高彥波限建產葺草葺不合二十九代媛天皇

建奇津氣彥ノ命ヲ立テ世幸男トス

圓脊之男ノ命降誕立テ皇太子トス

皇太子ニ天職ヲ讓ル

日高彥波限建產葺草葺不合三十代彥天皇

耀媛ノ命ヲ立テ皇后トス

橘媛ノ命降誕立テ皇太子トス

羽後ノ雄勝郡ノ司雄勝彥ノ命酒色ヲ縱ニシ家

屋ヲ高大ニシ法典ヲ守ラス私ニ重稅ヲ課シテ

人民ヲ困苦セシム

天皇大ニ怒テ之ヲ誅ス

皇太子橘媛ノ命ニ天職ヲ讓ル

日高彥波限建產葺草葺不合三十一代媛天皇

惠長藥玉合ノ命ヲ立テ世幸男トス

花撰媛ノ命降誕立テ皇太子トス

皇太子ニ天職ヲ讓ル

日高彥波限建產葺草葺不合三十二代媛天皇

文机彦ノ命ヲ立テ世幸男トス

清之宮媛ノ命降誕立テ皇太子トス

天皇萱野常世彦ノ命ノ家ニ臨幸ス命草花ヲ愛シ

多ク園中ニ培養ス

天皇御製ヲ作ル

天皇御腦屢起ル依テ天職ヲ皇太子清之宮媛ノ命

ニ讓ル

上皇詔シテ神魂國光ノ命ヲ世幸男ニ立テントス

然レ比命ハ年五十ヲ過キテ

天皇ハ御年未タ二十ニ滿タス大臣

天皇ノ或ハ其長年ナルヲ嫌ハセ給ントヲ慮テ之

ヲ

天皇ニ伺フ

天皇詔シテ曰ク朕若年天職ヲ受ク其任ニ堪ヘサ

ルヲ憂フ今命ヲ以テ世幸男ト為スハ朕力大ニ

悦フ所ナリト終ニ命ヲ立テ世幸男トス

日高彥波限建產葺草葺不合三十三代媛天皇

八千尾龜之男ノ命降誕立テ皇太子トス

風候ト星度トヲ実測シテ之ヲ天下ニ教授セシ

ム

天皇天職ヲ皇太子八千尾龜之男ノ命ニ譲リ直入

ノウマシノ大宮ヲ仙洞トス

日高彥波限建產葺草葺不合三十四代彥天皇

御即位大禮式

皇太子天津高御坐ニ登御ス

天皇ハ他ノ高御坐ニ立御ス

群臣禮ヲ行フ

兎屋根寒川ノ命太玉敷山ノ命思兼問思男ノ命

金冠ヲ着テ大禮服ヲ着シ手ニ扇ヲ採リ恭シク

進ンテ八柏手ノ禮ヲ行ヒ座拝シテ神ノ代々事

ヲ讀ミ上テ終テ又八柏手シテ拜ス

天皇八柏手シテ天津祝言ノ太祝言ヲ宣ヘ終テ世

幸男ノ命ヲ召ス

世幸男ノ命

皇太子ノ御前ニ八拍手シテ天津祝言ノ太祝言
ヲ宣ヘ終テ鼻掛ヲ目深ニナシテ
八手ノ大鏡ヲ目上高ニ捧ケ立ツ
兎屋寒川ノ命鼻掛ヲ目深ニ深メテ
八手ノ大鏡ヲ受ケ頭上ニ持テ恭シク

皇太子ノ玉坐ニ進ンテ之ヲ高宮ニ納ントスル
時ニ皇太子群臣皆八拍手シテ拜ヲ為ス
次ニ

村雲ノ御劍次ニ

潮満子ノ珠ヲ上ル皆前ノ如シ茲ニ於テ

皇太子八拍手膝行シテ三種ノ神器ヲ受テ高宮
代ニ納奉リテ天津祝言ノ太祝言ヲ宣リ給ヒテ
玉坐ニ復御ス

兎屋根寒川ノ命太玉敷山ノ命思兼問思男ノ命
拍手シテ神ノ代々事ヲ白シテ大御名ヲ称ヘテ
日高彦波限建産葺草葺不合三十四代彦天皇ト白
ス時ニ

群臣アウト白シ柏手シテ拝ヲナス

天皇大御自ラノ御冠ヲ脱キアナホケト宣フ時ニ
世幸男ノ命其御冠ヲ受テ持テ之ヲ

天皇ニ着セ奉ル時ニ致仕長壽ノ臣ヲクツ宿祢ノ
命水上尾勝玉ノ命膝行シテ天盃ヲ捧ケテ之ヲ
上皇ノ玉座ノ前ニ置ク

上皇天盃ヲ採テ歌ハセ給フ

ミトシフルヘニ ユラニ
タカラハルヘニ ユラニ

歌ヒ終ツテ上ノ天盃ヲ

天皇ニ賜ヒ次ノ天盃ヲ皇后ニ賜ヒ次ノ天盃ヲ三

大臣ニ賜ヒ又他ノ天盃ヲ普ク群臣ニ賜フ

於此群臣柏手シテ天津祝言終リ

上皇カン立チマサ子ト詔シテ大禮畢ル

花媛ノ命降誕立テ皇太子トス

天皇即位ノ二十一年

上皇崩ス世幸男ノ命亦棺槨ノ内ニ坐シテ

天皇ニ奏シテ曰ク予モ亦

天津神ニ復命スヘシ陛下上代ノ法ニ違フヲ勿レ
ト眼ヲ閉ヂテ又崩ス大分ノ御宝山ノ巔ノ同陵
ニ葬ル

天皇崩ス大分ノ御宝山ノ上ニ葬ル

皇太子花媛ノ命天職ヲ受ク

日高彦波限建産葺草葺不合三十五代媛天皇

詔シテ世幸男ハ召サス

天職ヲ皇弟若照彦ノ命ニ譲ル

日高彦波限建産葺草葺不合三十六代彦天皇

赤早枝媛ノ命ヲ立テ皇后トス

松照彦ノ命降誕立テ皇太子トス

詔シテ

伊弉諾天皇ヨリ

産葺草葺不合三十六代天皇迄ノ歴史ヲ修撰セシ

△

思兼天津悟ノ命大家為身ノ命大槌矢蓄身ノ命

大城萬進ノ命ノ四命鶴ノ羽ヲ杉ノ脂ヲ以テ堅

メテ萩ノ木ニ押ミタル筆松ノ葉ヲ焼キテ製シ

タル凝烟ヲ葛ノ油ヲ交テ製シタル墨ヲ以テ楮ノ木ノ皮トカチノ木ノ皮トヲ以テ製シタル紙ニ寫ス

皇太子松照彦ノ命ニ天職ヲ讓ル

日高彦波限建産葺草菅不合三十七代彦天皇

系依媛ノ命ヲ立テ皇后トス

天津祝詞子ノ命降誕立テ皇太子トス

詔シテ東國ニ巡幸セントス

兒屋祭文ノ命葵シテ人民ノ疾苦センコトヲ畏ル

ト云フ

詔シテ鳳輦ヲ用井ス僚属ヲ具セス上下一百拾

寺名各馬ニ騎テ之ニ供奉ス

大分ノ御宝山ノ宮ニ入御シ夫ヨリ中津ニ巡幸

ス土人垂輿ヲ作テ奉迎ス

長門ノ豊浦ノ宮ニ入御ス

國令雲根鶉飼ノ命饗シ奉ルニ朱塗ノ膳椀器具

ヲ用井料理甚々法ニ適ス

天皇大ニ悦テ以テ天下婚姻ノ式トナサシム

此開上紀欠本

日高彦波限建產葺草葺不合三十八代天皇

天皇東國ニ巡幸ス

陸奥ノトガノ山ノ行宮ニ入御ス

土人（ウラノサムヤロ）（タマベノツルマロ

）（ユガシノイナタロ）ノ三人奏シテ曰ク奴

等海上ニ漁獵ヲナシ大風ニ遇ヒ三日ニシテ一

島ニ達ス此島樹木繁茂シ人民皆穴居ス言語通

スルヲ能ハス其食ハ海魚ヲ捕テ潮ニ涵ス丁三

日裂テ之ヲ食フ宜シク開拓シテ土人ヲ救フベ
シト

詔シテ大土國オホツチクニサキ崎ノ命ヲ開拓頭トナシ三人ヲ嚮

導トナシ以テ其島ヲ開拓セシム全島ノ男女八

十四人ヲ三十二戸ニ別テ耕作機織其他百般ノ

事ヲ教授ス三年ニシテ其効ヲ奏ス

天皇巡幸シテ薩摩ヲ歴テ遂ニ白杵ノ大宮ニ入御
ス

天皇不豫三種ノ神器ヲ皇太子カシタラシ神足伊足彦ノ命ニ

授テ崩ス大分ノ御宝山ニ葬ル

日高彦波限建産葺草葺不合三十九代彦天皇

夏媛ノ命ヲ立テ皇后トス

神楯媛ノ命降誕立テ皇太女トス

廣矛孫杵ノ命明玉早鳴玉ノ命等十四命ヲ勸農

頭ニ任シテ天下ヲ巡廻セシム

官員ノ禮服ヲ定ム

内窠外窠ハ常ニ赤緒付ノ檜扇ヲ持シム

五大臣ハ禮服ヲ着クル時ハ必ス釵ヲ佩カシム

大臣ノ妻ハ外行スル片ハ必ス籠ヲ被ル

庶人ノ妻ハ綿帽子ヲ被ル

官員ヨリ庶人ニ至ルマテ必ス

天津神ト

國津神ト各自ノ祖先トヲ祭ラシム

皇太女神楯媛ノ命ニ天職ヲ讓ル

日高彦波限建産葺草葺不合四十代媛天皇

神屋形之男ノ命ヲ立テ世幸男トス

神楯廣幡八十足彦ノ命降誕立テ皇太子トス

天皇崩ス大分ノ御宝山ニ葬ル

皇太子神植廣幡八十足彦ノ命天職ヲ受ク

日高彥波限建産葺草葺不合四十一代彥天皇

富依媛ノ命ヲ立テ皇后トス

鶴舞媛ノ命降誕立テ皇太子トス

日向ノ兒湯ノ郡ナシビノ民（マルキフタロ）

難病ニ罹リ三年瘡エス家子来テ治ヲ乞フ詔シ

テ侍医大國八雲郡戸長ノ命少名温泉知男ノ命

ヲ遣ハシテ之ヲ診察セシム兩医前ノ治療ヲ聞

テ藥ヲ服ヒシメ且藥湯ニ浴セシメテ之ヲ療ス

百日ニシテ瘡ユ

皇太子鶴舞媛ノ命天職ヲ受ク

日高彥波限建産葺草葺不合四十二代媛天皇

高津神達太玉燧杵ノ命忌部田勝御親ノ命思兼

大鳥ノ命底根村別ノ命中臣倉谷ノ命表春植之

男ノ命等相議シテ彥王之雄ノ命ヲ立テ世幸男

トス後三年命薨ス更ニ真足玉別ノ命ヲ立テ世

幸男トス

豐足大御中ノ命降誕立テ皇太子トス

天皇位ヲ皇太子豐足大御中ノ命ニ讓テ直入ノ大宮ニ崩ス

日高彥波限建產葦草背不合四十三代彥天皇

若玉ワカタマイスギ之女ノ命ヲ立テ皇后トス

大炊氣吹オホカキケフキノ命降誕立テ皇太子トス

空津爭鳥ソラツ アラソヒカラスノ命降誕

鳥言足清男カラスコトタラシスガヲノ命降誕

天之葉槌池月アメノハツキイメツキノ命年老致仕シテ諸國ヲ謾遊シ

教法ヲ人民ニ施コス一日

天皇ニ謁見ヲ請ビ奏シテ曰クヤツ奴茲行中海中ニ大

島アルヲ見ル人民多クアレ氏或ハ樹下ニ住ミ

或ハ岩窟ニ住ミ草ヲ衣トシ獸ヲ食トスクナヒケテ口鬚ア

ルヲ以テ男女ヲ辨ス飲食ヲ争テ禮儀ヲ知ラス

又親子ノ禮ナシ願クハ

天皇之ヲ憐ミテ開拓シ給ハンコトヲト

天皇詔シテ之ヲ思兼オモイカサトモ纜網ノ命太玉世榮オホタマヨキ彥ノ命見

屋根生取別ノ命ニ計ラシム三命其位置ヲ問ヒ

天皇ニ奏シテ沫諾國明ノ命オモナキ面諾オモナキサイカ主ノ命等
ヲシテ大船十艘ニ諸職工百五十人海人八十人
ヲ乗セ食糧ヲ蓄エテ其島ニ到リ此島ヲハエハ
ラ島ト名ク島人我ヲ見テ大ニ恐レ山上ニ遁レ
テ石ヲ抛ツ茲ニ於テ老人二人ニ義服ヲ着セシ
メ温顔ヲ以テ島人ヲ招カシム島人漸ク我ニ馴
レ近ク即チ羨食ヲ與ヘ又衣服ヲ與フ然ルニ彼
衣服ヲ着ル丁ヲ知ラス全島ノ人ヲ集テ農工ノ
業ヲ教エ施テ他ノ島ニ及フ之ヲフタナキノ島

ト名ツク十三年ヲ歷テ功ヲ奏ス沫諾國明ノ命
ヲ以テフタナキノ島ノ令ニ任ス

天皇崩ス肥後國菊池郡諸山ニ葬ル

皇太子大炊氣吹ノ命天職ヲ受ク

日高彥波限建產葺草葺不合四十四代彥天皇

天皇御腦多シ天職ヲ皇弟空津牟烏ノ命ニ讓テ大

今ノ御宝山ヲ仙洞トス

日高彥波限建產葺草葺不合四十五代彥天皇

天皇不徳古典ヲ守ラス公田ヲ荒蕪シテ租稅ヲ人

民ニ重科シ酒ヲ愛シ色ニ荒ム人民大ニ苦ム阿
蘇ノ江尻ノ大野ニ遊御シテ馬ヨリ落テ崩ス江
尻ノ山ニ葬ル

皇弟烏言清男ノ命天職ヲ受ク

日高彥波限建產葺草葺不合四十六代天皇

豐櫛玉媛ノ命ヲ立テ皇后トス

大庭足媛ノ命降誕立テ皇太子トス

皇太子大庭足媛ノ命天職ヲ受ク

日高彥波限建產葺草葺不合四十七代媛天皇

早別葺垣足ノ命ヲ立テ世幸男トス

豐津神足別ノ命降誕立テ皇太子トス

皇太子豐津神足別ノ命天職ヲ受ク

日高彥波限建產葺草葺不合四十八代彥天皇

豐鋤媛ノ命ヲ立テ皇后トス

豐足彥ノ命降誕立テ皇太子トス

皇太子豐足彥ノ命天職ヲ受ク

日高彥波限建產葺草葺不合四十九代彥天皇

豐櫛若王媛ノ命ヲ立テ皇后トス

神足別國押之女ノ命ヲ立テ皇太子トス

皇太子神足別國押之女ノ命ニ天職ヲ譲リ薩摩

ノ霧島ニ宮ヲ建テ仙洞トス

日高彥波限建產葺草葺不合五十代媛天皇

笠取彦ノ命ヲ立テ世幸男トス

天勝國勝媛ノ命降誕

詔シテ大臣以下ノ妻ノ官職ヲ定メ官中ニ入テ

媛天皇ニ奉仕セシム

皇太子國押別神足日ノ命ニ天職ヲ譲リ豐後ノ
宮所ノ宮ヲ仙洞トス

日高彥波限建產葺草葺不合五十一代彥天皇

天勝國勝媛ノ命ヲ立テ皇后トス

天津紅之枝王ノ命降誕

飛信ノモタスノ郡ノ老人(ホツミヨロ)(ホ

ツミコ、ロ)(ミヌノマロ)(ミヌノイロ)

(ナカトミオ)ノ五人水車ヲ製シ米穀ヲ精ケ

水ヲ高所ニ曳テ田水ニ供スルヲ發明ス

天皇大ニ之ヲ賞シテ此法ヲ諸国ニ傳ヘ五翁ニ名
ヲ賜フ

ホツミヨロニ　ミスマキヌシノ命

ホヅミコ、ロニ　ミヅノヲヤノ命

ミヌノマロニ　クルマコリノ命

ミヌノイロニ　クルヒノチノ命

ナカトミヲニ　ヒカケタマノ命

皇太子天津紅之枝玉ノ命ニ天職ヲ讓ル

日高彥波限建產葺草葺不合五十二代彥天皇

上皇崩ス直入ノ吾平山ニ葬ル

天皇詔シ太嘗會ヲ行フ

天津神

皇祖列聖

天照大御神

月讀ノ命

國照大神

諸大臣及諸臣祖先ノ神

天皇ノ

父母ノ神及皇族ノ神ト又

國令及ヒ凡ソ國家ニ功勞アルノ神ヲ悉ク天津

高御座ニ居エテ

旗 鉾 劍 弓矢 鏡 玉 幣 稻 麥 諸

穀物 酒 海魚 河魚等ヲ供ヘ

諸大臣天津祝辭ノ太祝辭ヲ宣リ樂ヲ奏シ舞ヲ

舞フ

半ハシトミヒガ菰媛ノ命ヲ奉テ皇后トス

天アマヒラキアカリシクムニガ開明知國東ノ命降誕立テ皇太子トス

天皇豊後ノアトベ島ニ遊御シテ渙獵ヲ天覽シ其

術ノ甚々拙キヲ嘆キ御年ミトシウカツメヲ穿目男ノ命ミタマワタマ國玉和魂

主ノ命等ニ詔シテ其術ノ進歩ヲ計ラシムハ命

渙獵ノ開進ヲ計リ又磁石ヲ作テ渙人ニ與フ

詔シテ雲根手長男ノ命早桐梅花咲ノ命等十一

命ヲ全國ニ派遣シテ渙獵ノ開進ヲ計ラシム

皇太子天開明知國東ノ命ニ天職ヲ讓リ大分ノ

御空山ノ安坐ノ山ヲ仙洞トス

日高彥波限建產葺草葺不合五十三代彥天皇

若鷹媛ノ命ヲ立テ皇后トス

高天原輝徹國知ノ命降誕立テ皇太子トス

詔シテ全國ニ宮ヲ造テ

國津神ヲ祭ラシメ其宮ニ各ツカサトトリモ

ノタケルトサイモリノ四官ヲ置カシム

天皇大ニ儀仗ヲ減シテ天下ヲ巡幸フ

天皇久シク不豫見屋根神楯ノ命御惱ヲ伺フ詔シ

テ曰ク人民ノ租稅每ニ増加シテ以テ官庫ヲ充

タス朕カ憂フル所ナリ汝宜シク之ヲ計レト命

詔ヲ承テ中臣押國魂百手ノ命表春檻山ノ命等

二十五大臣ヲシテ之ヲ議セシム佐世理佐野土

ノ命佐世理種球ノ命佐世理若峰ノ命ノ三人之

ヲ肯セス諸官大ニ怒テ之ヲ日隅ノ島ニ流ス

大隅屋久ノ島ニ外國シニウ(周)ノ民漂着ス

詔シテ其五十人ヲ豊後ニ居ラシメ其五十人ヲ

陸奥ニ居ラシメ其五十人ヲ信濃ニ居ラシメ其

五十人ヲ丹波ニ居ラシメテ之ヲ安撫ス

此間上紀欠本

皇太子神足別豐鋤ノ命天職ヲ受ク

日高彥波限建產葺草葺不合六十九代彥天皇

足形媛ノ命ヲ立テ皇后トス

神心傳物部建ノ命降誕立テ皇太子トス

天皇崩ス大分ノ御宝山ノ顛ノ西ノ岩室ニ葬ル

皇太子神心傳物部建ノ命天職ヲ受ク

日高彥波限建產葺草葺不合七十七代彥天皇

矢野媛ノ命ヲ立テ皇后トス

臼杵ノ命降誕立テ皇太子トス

詔シテ國郡ノ制ヲ改正シテ大國ノ中ニ中國ヲ

置キ中國ノ中ニ小國ヲ置キ小國ノ中ニ村ヲ置

キ各其長官ヲ置ク

皇太子臼杵ノ命ニ天職ヲ讓リ阿蘇ノ下ノ宮ヲ

仙洞トス

日高彥波限建產葺草葺不合七十一代彥天皇

玉依媛ノ命ヲ立テ皇后トス

五瀬ノ命降誕立テ皇太子トス

佐野ノ命降誕

其六月全國ノ地大ニ震ヒ山崩レ島潰レ地拆テ
テ黒泥ヲ吐ク八月大風木ヲ折リ砂ヲ飛シ稻尽
ク白穂トナリテ實ノラス翌春霖雨月ヲ越テ麥
皆黒穂トナル天下大ニ飢餓ス
詔シテ曰ク人民ハ我カ主ナリ今正ニ飢餓ニ迫
レリ安居ノ時ニアラサルナリト

天津神ト

國津神トヲ親祭シテ

天皇皇族大臣各諸國ヲ巡廻シテ親シク人民ヲ救

助セント欲シ即チ多ク農耕ノ器械ヲ造ラシメ
各御船ニ満載シテ四方ニ汎出ス

御船豊後ノ速吸門ヲ発スハセダキノ頭ウズ佐

賀彦ノ命子六人（ニウマロ）（アカマロ）（

シロマロ）（クロマロ）（タノマロ）（サシ

マロ）ノ六人ヲ率イ來テ請テ水先トナル

天皇大ニ賞シテ推シイ擢サツノ御劍ヲ賜ヒ又各ニ名ヲ賜

テ分ツテ諸皇族ノ水先トス

御船北方越中ノ新川ノ門ニ着御ス表春ウロハル攝カキ男ヲクマ玉